YAMAHA

取扱説明書

⚠ ご使用の前には必ず取扱説明書を
よく読んでください。

R25

モーターサイクル

YZF-R25

BRE-F8199-J0

JAUA4580

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。
車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。
車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。
また、メンテナンスノート、セーフティガイド（バイクをより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。
本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠	**安全にかかわる注意情報を示してあります。**
⚠警 告	**取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。**
注 意	**取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。**
要　点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

はじめに

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」「車両受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。

- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間

※ 車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。

※ 仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

もくじ

安全運転のために 1-1
あなた自身と同乗者のために 1-1
歩行者と他の車のために 1-8
環境・住民の方との調和のために ...1-10

各部の名称 2-1
左側面 2-1
右側面 2-2
運転装置と計器類 2-3

車両の特徴 3-1
CCU（コミュニケーション
コントロールユニット）.....3-1

各部の取り扱いと操作 4-1
キーの取り扱い 4-1
メインスイッチ 4-1
警告灯と表示灯.....4-4
マルチファンクションメーター 4-7
ハンドルスイッチ 4-20
ABS 4-23
フューエルタンクキャップ 4-24
燃料 4-26
シート 4-27
ヘルメットホルダー 4-30
書類入れ 4-31
小物入れ 4-31
バックミラー 4-32
リヤクッションの調整 4-33
DC コネクター 4-35
クイックシフターコネクター 4-35
USB Type-A ジャック.....4-35
サイドスタンド 4-37
イグニッションサーキット
カットオフシステム 4-37

日常点検 5-1
日常点検の実施 5-1
日常点検箇所／点検内容 5-1

運転操作 6-1
ならし運転 6-1
エンジン始動 6-1
ギヤチェンジのしかた 6-3
ブレーキ 6-4

もくじ

駐車 6-6

点検整備 7-1
点検整備の実施 7-1
サービスツール 7-3
エンジンオイル 7-3
エンジンのかかり具合、
異音の点検 7-6
低速、加速の状態の点検 7-6
冷却水 7-7
エアクリーナーエレメントの交換 7-8
タイヤ 7-8
クラッチ 7-11
ブレーキレバーの遊び／
ブレーキペダルの遊び、および
ブレーキのきき具合の点検 7-12
ブレーキランプスイッチの点検 7-13
ブレーキパッドの点検 7-13
ブレーキ液量の点検 7-14
ドライブチェーン 7-16
ドライブチェーンの給油 7-18
車体各部の給油脂状態の点検 7-18
アンダーブラケットの
取り付け状態の点検
（ステアリングステム） 7-19
バッテリー 7-19
ヒューズ交換 7-22
灯火装置および方向指示灯の
点検 7-26
運行において異常が認められた
箇所の点検 7-27

お車の手入れ 8-1
洗車 8-1
キャストホイールの取り扱い 8-3
カウリングの取り扱い 8-4
ウインドシールドの取り扱い 8-4
保管のしかた 8-5
アフターケア用品について 8-6

製品仕様 9-1

ユーザー情報 10-1
二輪車を廃棄する場合は？ 10-1

サービスマニュアル（別売）の
紹介 10-3
車両情報 10-3

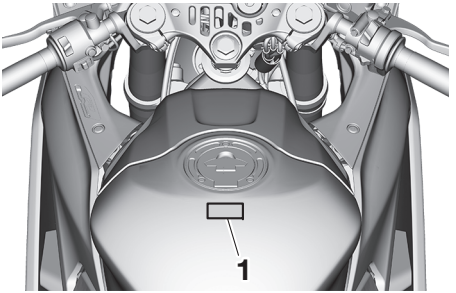
索引.....11-1

安全運転のために

1

JAU27281

この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。
安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。



1. 安全項目ラベル

JAU44286

あなた自身と同乗者のために

安全項目ラベルについて

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。

⚠ 警 告

- 取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
- ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- マフラーは熱くなります。人が触れにくい場所に駐車するなどの配慮をしましょう。
- ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
- 違法改造はやめましょう。
- 定められた点検整備をメンテナンスノートに従って励行しましょう。

安全運転は正しい服装から

- ヘルメットは必ず着用してください。ヘルメットは PSC または SG、JIS マークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめます。頭にしっくり合って、圧迫感のないものが最適です。
- グローブを必ず着用してください。グローブは、摩擦に強い皮製のものが適しています。
- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は以下のことを確認して選び、着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
  - プロテクターを備えた保護性の高い服で明るく目立つ色のもの
  - 動きやすく、体の露出が少ない長袖・長ズボン

- 以下のような服装は運転操作のじゃまになります。また、回転部分に巻き込まれたり高熱になる部分に接触したりして、思わぬ事故の原因にもなりますので、着用しないでください。
  - ズボンのすそや袖口の広い服
  - 衣服の飾り物や紐など、長すぎる装飾がある服
  - ロングスカートやロングマフラーなどの体に密着しない服

- 靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。
- 同乗者にも上記の注意を守らせてください。

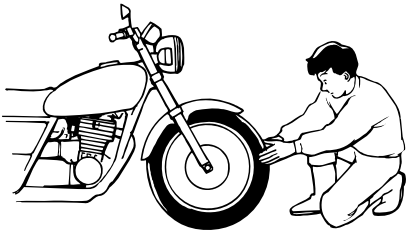
JWA11601

⚠ 警 告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。運転者と同乗者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

日常点検、定期点検整備を必ず行う

事故や故障を防ぐため、法令で定められた日常点検を行ってください。また、法令で定められた 1 年、2 年ごとに行う定期点検も必ず実施してください。



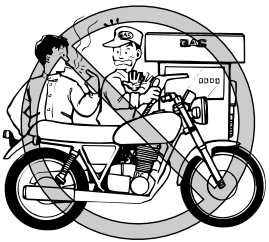
車の異状

次のような場合は、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。販売店で点検・整備を受けてください。

- 異音がしたり、異臭や異常な振動があるとき。
- 地面にオイルなどが漏れた跡があるとき。
- 燃料、冷却水のにじみまたは漏れた跡があるとき。

給油時は火気厳禁

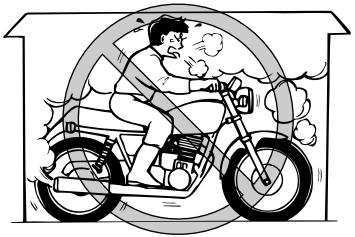
ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。



風通しの悪い場所でエンジンを始動しない

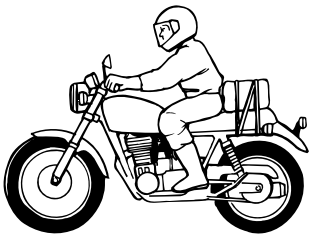
排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。

風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。



荷物はしっかり固定する

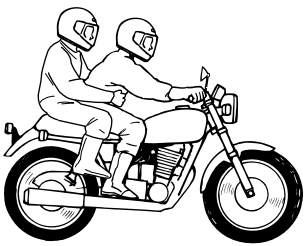
- 荷物を積むと、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。荷物はしっかりと固定し、積み過ぎないように注意してください。



- ハンドルの近くには、荷物など、物を置かないでください。ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作を妨げる場合があります。
- ヘッドライトの前を荷物などでさえぎらないようにしてください。ライトの熱によりヘッドライトのレンズが変色、溶損したり、荷物にまでその不具合がおよぶこともあります。
- マフラー、エンジンなどの熱くなるところへ荷物などの物が触れないようにしてください。

両手はハンドル、両足はフットレスト

- 運転するときは、両手でハンドルを握り、両足をフットレストにのせます。
- 同乗者には、両手で体をしっかり固定させ、両足を必ずフットレストにのせさせます。



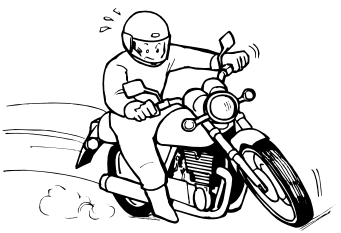
乗車定員は 2 名

ただし、免許取得後 1 年未満の運転者は、法令により 2 人乗りはできません。

また、高速道路（2 人乗りが許可されている高速道路）においては、20 才以上で、免許取得後 3 年を経過した運転者でなければ 2 人乗りはできません。

急激なハンドル操作や片手運転はしない

急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。



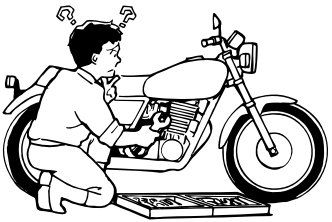
誤った方法でエンジンを停止しない

誤った取り扱いをすると、マフラーの中の触媒装置が異常に高温になり、損傷するおそれがあります。次のような操作はしないでください。

- 走行中にメインスイッチやエンジンストップスイッチでエンジンを停止する。
- 空ぶかし直後にエンジンを停止する。

自己流のエンジン調整、部品の取り外しはしない

エンジン調整はヤマハ販売店におまかせください。



JCA15221

注 意

部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう、販売店へ依頼してください。規格が異なった部品を使用すると、故障などの原因となります。

自賠責保険に必ず加入

自賠責保険（共済）に加入することは法令で定められています。万一の事態に備えて必ず加入してください。

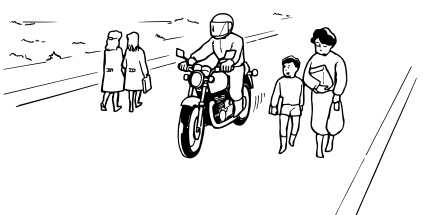
また、保険の期限切れにも注意してください。

JAU27504

歩行者と他の車のために

他の人への思いやり

- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。



1

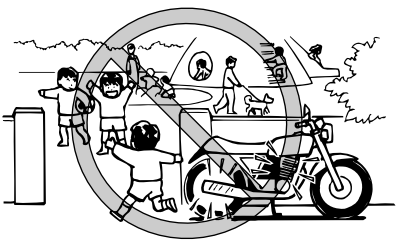
駐車

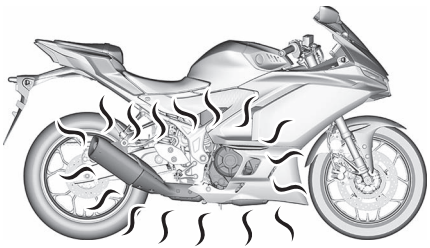
- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。
- 平坦な場所に駐車してください。やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。
- 車から離れる前に、スタンドが確実にセットされているかを確認してください。

JWA12241

⚠ 警 告

- **エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。触れるとヤケドをすることがありますので、注意してください。また、物などが直接触れないようにしてください。**
- **駐車は、通行する人がマフラーやエンジンなどに触れない場所にしてください。**
- **マフラーの中の触媒装置は高温になります。枯れ草や紙、オイル、木材など、燃えやすいものがある場所には駐車しないでください。**

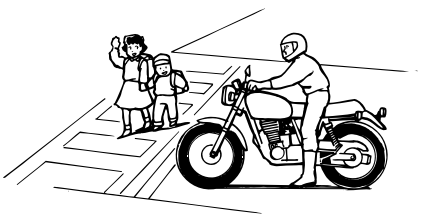




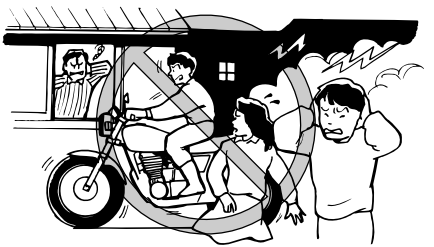
昼間はヘッドライトを下向きに
この車両は自動昼間点灯仕様です。他の車や歩行者へ注意をうながし、自分の存在を知らせるためです。対向車がまぶしくないように、ライトは下向きを使ってください。

JAU27582
環境・住民の方との調和のために

住民の方への思いやり
自分の都合だけを考えて、沿道の方に不愉快な騒音などの迷惑をかけないでください。

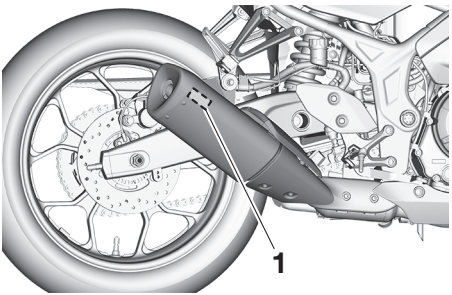


特に深夜の住宅街や人通りの多い道路などで長時間のアイドリングや急発進などを行うと、迷惑になりますのでしないでください。



違法改造はしない

- 違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、排気音を大きくして車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。
- この車は、排出ガス規制適合車です。マフラーには排出ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラーを交換する場合は、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。なお、ヤマハ純正部品のマフラーには“YAMAHA”マークが刻印されています。



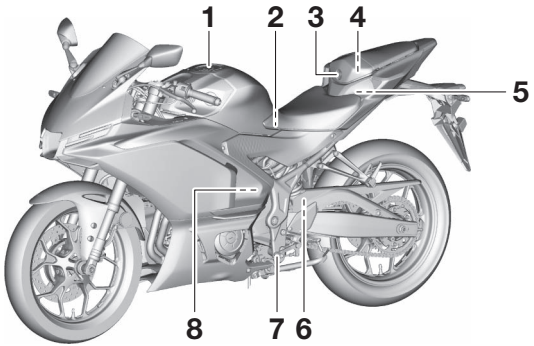
1. “YAMAHA” マーク

環境への配慮

廃車をするときや、バッテリー、廃油などの廃棄処理をするときは、環境保護のためお買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

JAU89910

左側面

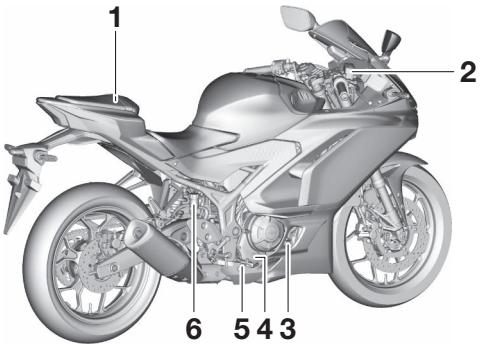


1. フューエルタンクキャップ（P4-24）
2. バッテリー（P7-19）
3. シートロック（P4-27）
4. 小物入れ（P4-31）
5. ヒューズ（P7-22）
6. スプリングプリロードアジャスター（P4-33）
7. シフトペダル
8. リカバリータンク（P7-7）

各部の名称

JAU89920

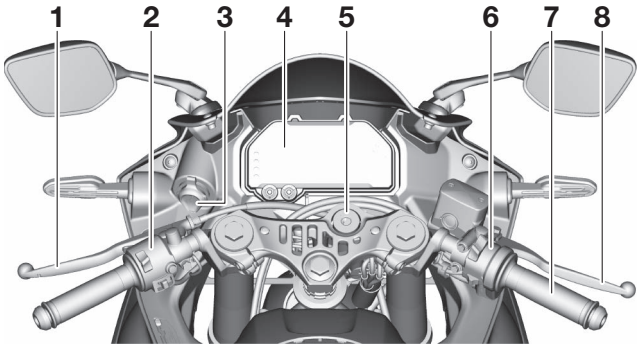
右側面



1. サービスツール（P7-3）
2. フロントブレーキリザーバータンク（P7-14）
3. オイル注入口（P7-3）
4. エンジンオイル点検窓（P7-3）
5. ブレーキペダル（P7-12）
6. リヤブレーキリザーバータンク（P7-14）

JAU89930

運転装置と計器類



1. クラッチレバー（P7-11）
2. ハンドルスイッチ（左）（P4-20）
3. USB Type-A ジャック（P4-35）
4. マルチファンクションメーター（P4-7）
5. メインスイッチ / ハンドルロック（P4-1）
6. ハンドルスイッチ（右）（P4-20）
7. スロットルグリップ
8. ブレーキレバー（P7-12）

JAUE4661

CCU（コミュニケーションコントロールユニット）

このモデルには、車両とスマートフォンをBluetooth 接続できる CCU が搭載されています。接続するには、スマートフォンアプリ“Yamaha Motorcycle Connect”を使用します。接続すると、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）アプリからの通知、電話の着信や着信履歴、スマートフォンのバッテリー残量（めやす）を車両のメーターに表示します。

“Yamaha Motorcycle Connect” では、最後に駐車した場所などの情報も確認できます。

要　点

本アプリのダウンロードやご利用にかかる通信費はお客様のご負担となります。

JWAN0070

⚠警　告

- **スマートフォンを操作する場合は、必ず車両を停止させてください。**
- **走行中はハンドルから手を離さないでください。**

● 常に視線と意識を道路にむけて、運転に集中してください。

JCAN0150

注 意

次のようなときは **Bluetooth** 接続が正常にできないことがあります。

● 強い電波、ノイズのある場所で操作するとき。
● 近くにテレビ塔や発電所、放送局、空港など、強い電波を発する設備があるとき。

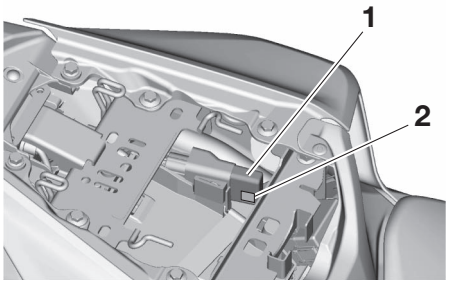
CCU とスマートフォンのペアリング

1. 以下の QR コードを読み込み、“Yamaha Motorcycle Connect” をダウンロードします。

要 点

スマートフォンの種類や OS バージョンによっては、“Yamaha Motorcycle Connect” をご利用になれない場合があります。

2. タンデムシートを取り外します。（4-27 ページ参照）
3. CCU を取り外し、“Yamaha Motorcycle Connect” で CCU の QR コードを読み込みます。

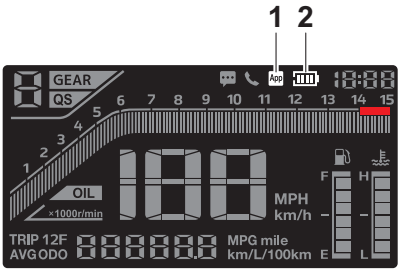


1. CCU（コミュニケーションコントロールユニット）
2. CCU の QR コード

要　点

車台番号を入力してペアリングすることも可能です。（10-4　　ページ参照）“Yamaha Motorcycle Connect” のログイン画面をご確認ください。

4. ペアリングが完了すると、“Yamaha Motorcycle Connect” アイコンとスマートフォンのバッテリー残量計が表示されます。



1. “Yamaha Motorcycle Connect” アイコン
2. スマートフォンのバッテリー残量計

要　点

- ペアリングしたスマートフォンはCCUに登録されます。次回、車両の電源をオンにしたとき、“Yamaha Motorcycle Connect” を起動すれば自動的に接続されます。

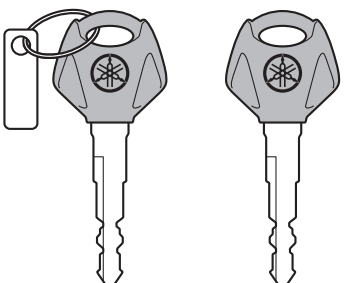
- CCUに一度に接続できるスマートフォンは1台です。
- 複数のスマートフォンがCCUに登録されている場合、接続可能範囲内に最初に入ったスマートフォンに接続されます。

5. CCU を元の位置に取り付け、タンデムシートを取り付けます。

JAU31082

キーの取り扱い

- キーは車の操作や保管をするときなどに使用する大切なものです。キーを紛失しないように、充分に注意してください。
- キーは 2 本付属しています。1 本は予備として大切に保管してください。
- 1 本のキーを紛失または破損したときは、販売店またはキーショップなどで新しい予備キーを作っておいてください。
- キーを2本とも紛失または破損したときは、販売店にご相談ください。



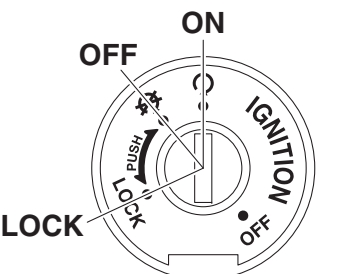
JCA12502

注 意

金属製のキーホルダーは使用しないでください。また、リングなどに複数のキーをつないで使用しないでください。走行中にキーホルダーや他のキーがカバーなどの部品に当たり、傷付きの原因となる場合があります。キーホルダーは、布製または皮製のものをおすすめします。

JAU65380

メインスイッチ



メインスイッチはエンジンの始動と停止、ブレーキランプや方向指示灯などの電源の「入 / 切」、ハンドルロックを行います。

JWA18110

⚠ 警 告

走行中にメインスイッチを “⊠” や LOCK の位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

JCA22220

注 意

エンジンをかけないでメインスイッチを“◯”のままにしたり、エンジン始動後アイドリング状態を長時間続けると、バッテリーあがりの原因となります。

要 点

盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。

JAU85950

◯(オン)

全ての電気回路に電源が供給され、メーター灯、テールランプ、ナンバー灯とマーカーランプが点灯し、エンジンを始動させることができます。キーを抜き取ることはできません。

要 点

- エンジンが始動すると、ヘッドライトが自動的に点灯します。エンジンが止まってもメインスイッチを“⊠”にするまで点灯し続けます。
- スタータースイッチを押して、エンジンが始動しないときにもヘッドライトが点灯することがありますが、異常ではありません。

JAU63880

⊠(オフ)

全ての電気回路がオフになり、エンジンが停止します。キーを抜くことができます。

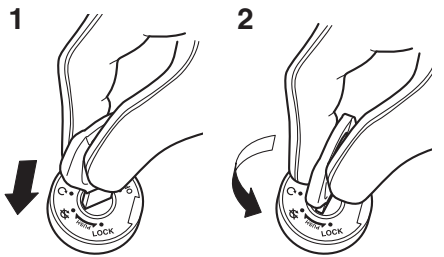
JAU73830

LOCK

ハンドルがロックされ、全ての電気回路がオフになります。キーを抜くことができます。

4

ハンドルロックのしかた



1. 押す
2. 回す

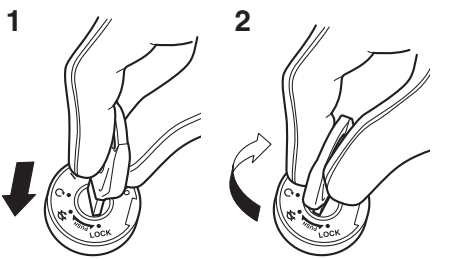
1. ハンドルを左へいっぱいに切ります。
2. “⊠” の位置でキーを押し込み、そのまま LOCK まで回します。

要　点

ロックしにくいときは、ハンドルを少し左右に動かしながらキーを回します。

3. キーを抜きます。

ハンドルロックの解除のしかた

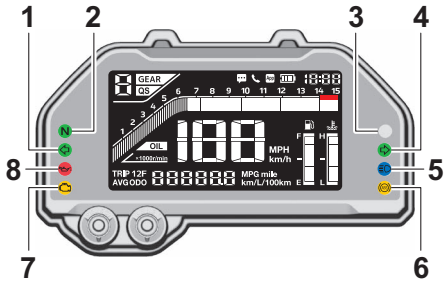


1. 押す
2. 回す

キーを押しこみ、そのまま “⊠” まで回します。

JAUA5930

警告灯と表示灯



1. 方向指示器表示灯（左）“ ”
2. ニュートラルランプ “ N ”
3. シフトタイミングインジケーターランプ “ ○ ”
4. 方向指示器表示灯（右）“ ”
5. ヘッドライト上向き表示灯 “ ”
6. ABS 警告灯 “ ”
7. エンジン警告灯 “ ”
8. 油圧警告灯 “ ”

JAU88280

方向指示器表示灯 “ ”/“ ”

方向指示器に合わせて点滅します。

JAU88300

ニュートラルランプ “ N ”

ギヤがニュートラルのとき点灯します。

JAU88310

ヘッドライト上向き表示灯 “ ”

ヘッドライトを上向きにすると点灯します。

JAU94230

油圧警告灯 “ ”

エンジンの油圧が低くなると点灯します。

要　点

車両の電源をオンにしたとき、警告灯が点灯し、一時的に消灯します。その後、エンジンを始動するまで点灯しています。車両の電源をオンにしても警告灯が点灯しないときは、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

JCA21211

注 意

エンジン運転中に油圧警告灯が点灯した場合は、エンジンを停止し、エンジンオイル量を点検してください。エンジンオイル量が不足しているときは、エンジンオイルを補給してください。補給したあとも警告灯が消灯しない場合は、エンジンを停止し、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

JAU88331

エンジン警告灯 “ ”

エンジン異常が発生したとき、警告灯が点灯します。警告灯が点灯したときは、ヤマハ販売店で車載故障診断装置の点検を受けてください。

要 点

車両の電源をオンにすると、警告灯が数秒間点灯し、その後消灯します。警告灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JCA26820

注 意

エンジン警告灯が点滅したときは、低速で走行してください。マフラーの中の触媒装置が損傷する可能性があります。

要 点

このエンジンは自己診断機能により繊細に監視され、排気ガス制御システムの劣化や故障を検知します。そのため、改造、整備不良や不適切な車両の使用により、エンジン警告灯が点灯する場合があります。故障以外の原因による警告灯の点灯を避けるために、以下のことを守ってください。

- エンジンコントロールユニットのソフトウェアを書き換えないでください。
- エンジンコントロールユニットに影響を与えるような電装アクセサリーを使用しないでください。

- 標準仕様以外のスパークプラグ、フューエルインジェクターを使用したり、サスペンション、排気系などの社外アクセサリーを使用したりしないでください。
- ドライブチェーン、スプロケット、ホイール、タイヤなどの仕様を変更しないでください。
- O2　センサー、エアインダクションシステム、触媒や EXUP などの排気系部品を外したり、改造したりしないでください。
- ドライブチェーンを正しくメンテナンスしてください。
- タイヤの空気圧を正しくメンテナンスしてください。
- ブレーキペダルの高さを正しくメンテナンスして、リヤブレーキを引きずらないようにしてください。
- スロットルグリップの開閉を過度に繰り返す、バーンアウト、ウィーリーや、半クラッチの多用などの行為はしないでください。

JAU90990

ABS 警告灯 “(ABS)”

車両の電源をオンにしたとき、警告灯が点灯し、走行すると消灯します。走行中に ABS 警告灯が点灯したときは、ABS が正しく作動していないおそれがあります。

JWA16043

⚠ 警 告

10 km/h 以上の速度で走行しても警告灯が消灯しない、または走行中に警告灯が点灯したとき

- **急ブレーキなどでホイールがロックしないよう、慎重にブレーキをかけてください。**
- **直ちにヤマハ販売店でブレーキシステムの点検を受けてください。**

JAU74094

シフトタイミングインジケーターランプ “○”

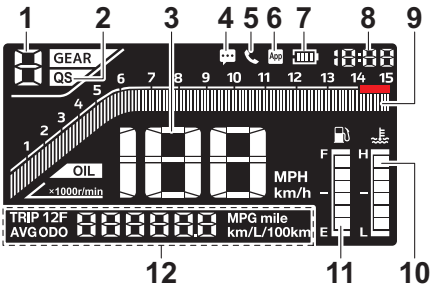
設定されたエンジン回転数になると点灯または消灯し、シフトアップのタイミングをお知らせします。（詳しくは 4-17 ページを参照してください。）

要　点

車両の電源をオンにしたとき、表示灯が数秒間点灯し、その後消灯します。車両の電源をオンにしたときに表示灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

JAUA3212

マルチファンクションメーター



1. ギヤポジション表示
2. クイックシフター表示 “QS”（装備している場合）
3. スピードメーター
4. アプリ通知アイコン “ ”
5. 着信通知アイコン “ ”
6. アプリ接続アイコン
7. スマートフォンのバッテリー残量計
8. 時計
9. タコメーター
10. 水温計
11. 燃料計

12.マルチファンクションディスプレイ

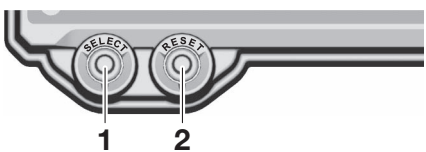
この車のメーターには、シフトタイミングインジケーターランプを設定する機能もあります。

JWA12423

⚠ 警 告

マルチファンクションメーターの設定変更をする前に、必ず車両を停止してください。走行中に設定の変更を行うと、操作に気をとられて事故を起こすおそれがあります。

"SELECT" ボタンと "RESET" ボタンを使用して、マルチファンクションメーターの調整や設定変更をすることができます。



1. "SELECT" ボタン
2. "RESET" ボタン

要 点

"SELECT" ボタンと "RESET" ボタンを使用する前に、必ずメインスイッチをオンにしてください。

JAU87140

表示単位切り替え

キロメートルとマイルの単位を切り替えることができます。

表示単位の切り替えかた

1. マルチファンクションディスプレイをオドメーターにします。
2. "SELECT" ボタンを表示単位が切り替わるまで押します。

要 点

走行前に必ずキロメートル単位になっていることを確認してください。

JAUA3220

着信通知アイコン “ ”

接続しているスマートフォンに着信があると点滅し、通話中は点灯したままになります。電話に出なかった場合は、車両の電源をオフにするまでアイコンが点灯します。

要　点

この機能は、スマートフォンが車両と接続されているときのみ作動します。

JAUV1002

アプリ通知アイコン “ ”

接続中のスマートフォンが SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）や電子メールなどの通知を受信すると、このアイコンが 10 秒間点滅します。その後、車両の電源をオフにするまでアイコンは点灯します。

要　点

- この機能は、スマートフォンが車両と接続されているときのみ作動します。
- あらかじめ接続するスマートフォンのアプリごとに通知設定が必要です。

JAUV1510

アプリ接続アイコン

Yamaha Motorcycle Connect アプリを使用して CCU とスマートフォンを接続すると、アイコンが点灯します。

要　点

スマートフォンと接続していなくても、車両の電源をオンにしたとき、アイコンが数秒間点灯し、その後消灯します。車両の電源をオンにしたときにアイコンが点灯しない場合は、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

JAUA3240

スマートフォンのバッテリー残量計

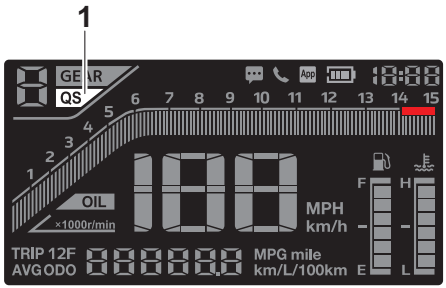
接続しているスマートフォンの現在のバッテリー残量を表示します。バッテリー残量が減ると残量計のセグメントの数が減ります。残りが約 10%以下になると、残りの 1 セグメントと残量計枠が点滅して知らせます。

要　点

スマートフォンと接続していなくても、車両の電源をオンにしたとき、残量計が数秒間点灯し、その後消灯します。車両の電源をオンにしたときに残量計が点灯しない場合は、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

JAU93021

クイックシフター表示 “QS”（装備している場合）



1. クイックシフター表示 “QS”

この表示は、クイックシフターがオンになると点灯します。

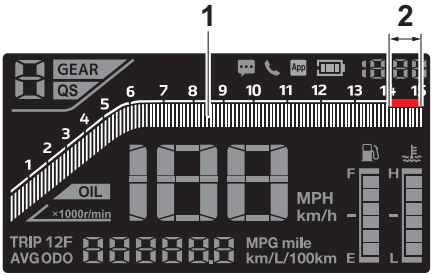
JAU86831

スピードメーター

車の速度を示します。

JAU87170

タコメーター



1. タコメーター
2. レッドゾーン

毎分のエンジン回転数を示します。

JCA10032

注 意

タコメーターの指針がレッドゾーンに入らないようにしてください。
レッドゾーン : 14000 r/min 以上

JAU86842

燃料計

フューエルタンク内の燃料残量を表示します。残量が減ると、燃料計のセグメントが “F”（満）から “E”（空）の方向に消灯していきます。残量が約 3.0 L になると、最後のセグメントが点滅を始めます。早めに補給してください。

要 点

燃料計の電気回路に異常が検出された場合、燃料計のすべてのセグメントが点滅を始めます。この場合は、ヤマハ販売店に車の点検を依頼してください。

JCAE0121

注 意

燃料を完全に使い切らないでください。触媒が損傷するおそれがあります。

JAUA3250

時計

この時計は 12 時間表示です。

時刻調整のしかた

1. ＜時＞の表示が点滅するまで “SELECT” ボタンと “RESET” ボタンを同時に押します。
2. “RESET” ボタンを使用して＜時＞を設定します。
3. “SELECT” ボタンを押すと、＜分＞の表示が点滅します。
4. “RESET” ボタンを使用して＜分＞を設定します。
5. “SELECT” ボタンを押して設定を確認します。

要 点

車両の電源をオンにして CCU とスマートフォンを接続すると、時計は自動的にスマートフォンと同期します。

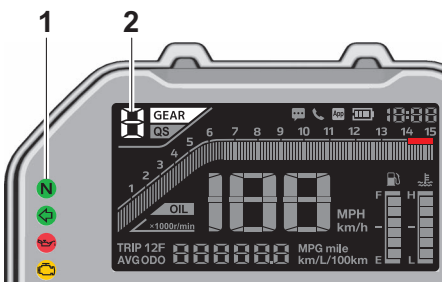
JAUA5570

水温計

冷却水の温度を表示します。温度が上がると水温計のセグメントが “L” (低) から “H” (高) 方向に増えていきます。一番上のセグメントが点滅した場合、エンジンを止めて冷やしてください。

JAUA3260

ギヤポジション表示

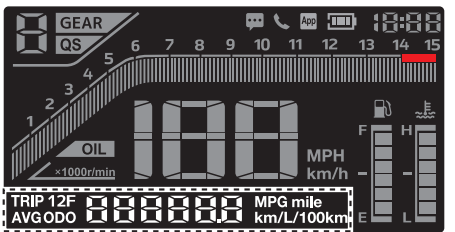


1. ニュートラルランプ “ N ”
2. ギヤポジション表示

選択しているギヤポジションを表示します。ギヤがニュートラルのときは、“–” を表示し、ニュートラルランプ “N” が点灯します。

JAUA3650

マルチファンクションディスプレイ



1. マルチファンクションディスプレイ

マルチファンクションディスプレイには以下の機能があります。

- オドメーター (ODO)
- トリップメーター (TRIP 1 / TRIP 2)
- フューエルトリップメーター (TRIP F)
- オイル交換トリップメーター (OIL TRIP)
- 瞬間燃費表示 (km/L または L/100 km)
- 平均燃費表示 (AVG_ _._ km/L または AVG_ _._ L/100 km)

“SELECT” ボタンを押すごとに、下記の順で表示が切り替わります。

ODO → TRIP 1 → TRIP 2 → TRIP F → km/L または L/100 km → AVG_ _._ km/L または AVG_ _._ L/100 km → OIL TRIP → ODO

要　点

燃料が少なくなると、フューエルトリップメーターが表示されます。

JAU86891

オドメーター

走行した総距離を表示します。

要　点

オドメーターは、最大値（999999 km）を超えると最大値で固定されます。

JAU88050

トリップメーター

最後にゼロに設定した地点からの走行距離を表示します。
トリップメーターをリセットするには、リセットしたいトリップメーターを表示させ、“RESET” ボタンをリセットされるまで押します。

要　点

トリップメーターは、最大値（9999.9 km）を超えるとリセットされます。

JAU87600

フューエルトリップメーター

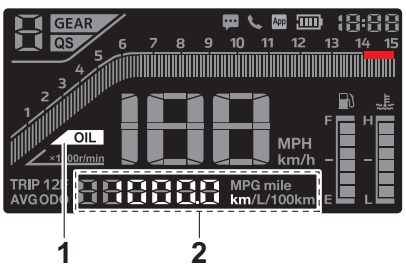
燃料計の最後のセグメントが点滅を始めると、自動的にフューエルトリップメーター “TRIP F” に切り替わり、その地点からの走行距離の計測を始めます。
フューエルトリップメーターをリセットするには、“RESET” ボタンをリセットされるまで押します。

要　点

フューエルトリップメーターはリセットしなくても、ガソリンを給油後約 5 km 走行すると自動的にリセットされて表示されなくなります。

JAU87680

エンジンオイルトリップメーター



1. エンジンオイル交換表示 “OIL”
2. エンジンオイルトリップメーター

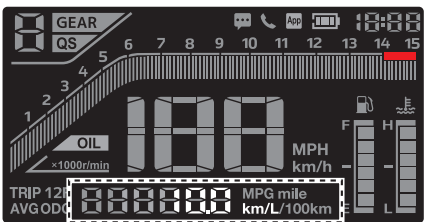
最後にオイル交換をしてからの走行距離を表示します。初回は 1000 km 走行時、次に 4000 km 走行時、以降は 5000 km 走行するごとに、エンジンオイル交換表示 “OIL” が点滅します。エンジンオイルトリップメーターとエンジンオイル交換表示をリセットするには、エンジンオイルトリップメーターを表示させ、“OIL” とエンジンオイルトリップメーターが点滅するまで “RESET” ボタンを押します。“OIL” とエンジンオイルトリップメーターが点滅している間に、“RESET” ボタンをリセットされるまで押します。

要　点

オイル交換したときは、エンジンオイルトリップメーターとエンジンオイル交換表示をリセットしてください。交換時期がずれてしまいます。

JAU87771

瞬間燃費表示



1. 瞬間燃費表示

現在の走行状態における燃費を表示します。“km/L” または “L/100 km” を表示することができます。燃費の単位を切り替えるには、表示が切り替わるまで “SELECT” ボタンを押します。

- “km/L”: 1.0 L の燃料で走行できる距離が表示されます。
- “L/100 km”: 100 km の走行に必要な燃料の量が表示されます。

要　点

- 10　km/h 未満の速度で走行している場合は、“_ _._” と表示されます。
- “MPG” はマイル単位の表示です。走行前に必ずキロメートル単位になっていることを確認してください。

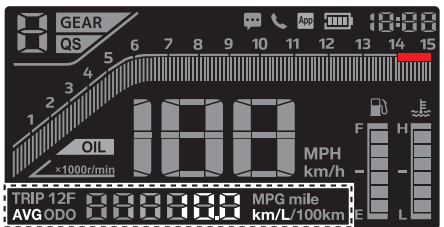
JAU87790

要　点

瞬間燃費は一般的な参照値としてのみ使用してください。この数値から、現在の燃料で走行できる距離を推定しないでください。

JAUA3630

平均燃費表示



1. 平均燃費表示

最後にリセットした時点からの平均燃費を表示します。“AVG_ _._ km/L” または “AVG_ _._ L/100 km” を表示することができます。燃費の単位を切り替えるには、表示が切り替わるまで “SELECT” ボタンを押します。

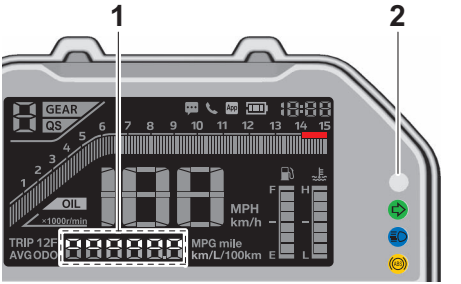
- “AVG_ _._ km/L”: 1.0 L の燃料で走行した平均距離が表示されます。
- “AVG_ _._ L/100 km”: 100 km 走行するために使用した燃料の平均量が表示されます。

要　点

- 平均燃費表示をリセットするには、平均燃費を表示させ、“RESET” ボタンをリセットされるまで押します。
- 平均燃費表示をリセット後は、ある程度走行するまで “_ _._” と表示されます。
- “AVG_ _._ MPG” はマイル単位の表示です。走行前に必ずキロメートル単位になっていることを確認してください。

JAU87950

シフトタイミングインジケーターランプの設定



1. 明るさ調節表示
2. シフトタイミングインジケーターランプ “ ○ ”

以下の設定を順番に調整できます。

- シフトタイミングインジケーターランプの点灯
- シフトタイミングインジケーターランプの作動回転数
- シフトタイミングインジケーターランプの停止回転数

● シフトタイミングインジケーターランプの明るさ

シフトタイミングインジケーターランプの点灯

1. 車両の電源をオフにします。
2. “SELECT” ボタンを押しながら、車両の電源をオンにします。シフトタイミングインジケーターランプの点灯設定に切り替わるまで “SELECT” ボタンを押します。
3. “RESET” ボタンを押して、次の点灯設定の中から 1 つを選択します。
   - 点灯 : 設定されたエンジン回転数に達すると、シフトタイミングインジケーターランプが点灯します。この設定を選択すると、インジケータランプは点灯したままになります。
   - 点滅 : 設定されたエンジン回転数に達すると、シフトタイミングインジケーターランプが点滅します。この設定を選択すると、インジケーターランプは 1 秒間に 4 回点滅します。
   - 消灯 : シフトタイミングインジケーターランプが消灯します。この設定を選択すると、インジケーターランプは 2 秒に 1 回点滅します。
4. “SELECT” ボタンを押すと作動設定が決定し、シフトタイミングインジケーターランプの作動回転数設定に切り替わります。

シフトタイミングインジケーターランプの作動回転数

シフトタイミングインジケーターランプは、7000 r/min から 15000 r/min の間で設定できます。7000 r/min から 12000 r/min の間では 500 r/min 刻み、12000 r/min から 15000 r/min の間では200 r/min刻みで設定することができます。

1. “RESET” ボタンを押して、シフトタイミングインジケーターランプが作動するためのエンジン回転数を選択します。

2. “SELECT” ボタンを押すと点灯設定が決定し、シフトタイミングインジケーターランプの停止回転数設定に切り替わります。

シフトタイミングインジケーターランプの停止回転数

シフトタイミングインジケーターランプは、7000 r/min から 15000 r/min の間で設定できます。7000 r/min から 12000 r/min の間では 500 r/min 刻み、12000 r/min から 15000 r/min の間では200 r/min刻みで設定することができます。

必ず停止回転数を作動回転数よりも高く設定してください。走行中にシフトタイミングインジケーターランプが作動しません。

1. “RESET” ボタンを押して、シフトタイミングインジケーターランプを停止するためのエンジン回転数を選択します。
2. “SELECT” ボタンを押すと点灯設定が決定し、シフトタイミングインジケーターランプの明るさ設定に切り替わります。

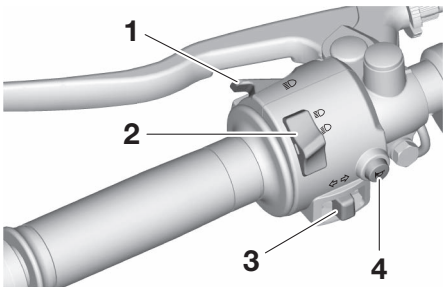
シフトタイミングインジケーターランプの明るさ

1. “RESET” ボタンを押して、シフトタイミングインジケーターランプの明るさを選択します。
2. 好みの明るさを選択したら “SELECT” ボタンを押して決定し、シフトタイミングインジケーターランプの設定をし終了します。

JAU1234U

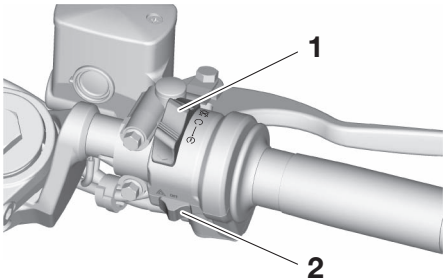
ハンドルスイッチ

＜左＞



1. パッシングライトスイッチ “≡○”
2. ヘッドライト上下切り替えスイッチ “≡○/≡○”
3. 方向指示器スイッチ “⇦/⇨”
4. ホーンスイッチ “ ”

＜右＞



1. スターター／エンジンストップスイッチ “ / / ”
2. ハザードスイッチ “OFF/ ”

JAU12352

パッシングライトスイッチ “≡○”

ヘッドライトの上向きを点灯させるスイッチです。先行車の追い越しなどで、他車に合図をするときに使用します。

要　点

ヘッドライト上下切り替えスイッチが“≡O”のときは、使用できません。

JAU12402

ヘッドライト上下切り替えスイッチ“≡O/≡O”

ヘッドライトの配光を上向き、下向きに切り替えるスイッチです。
≡O（上向き）：遠くを照らします。
≡O（下向き）：近くを照らします。

要　点

先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向きにしてください。

JAU80240

方向指示器スイッチ“⇦/⇨”

進路変更の合図に使用します。
操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。
消灯するときは、スイッチを押します。
⇨：右側の方向指示灯が点滅します。
⇦：左側の方向指示灯が点滅します。

JWA11641

⚠警　告

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は、必ず消灯してください。点滅したままにしておくと、他のかたの迷惑になります。

JAU12501

ホーンスイッチ“🔊”

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

要　点

必要なときにのみ使用してください。

JAU68271

スターター／エンジンストップスイッチ“㊋/○/⊗”

スターターでエンジンを始動するには、このスイッチを“○”に合わせてから、スイッチを“㊋”まで押してください。

JCA11882

注 意

- **スターターを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリーあがりの原因となります。**
- **エンジンを始動させる前に、6-1 ページの始動手順を参照してください。**

非常時に、エンジンをすぐに停止させるには “⊠” にします。通常は “◯” にしておきます。

JWA17700

⚠ 警 告

非常時にスターター／エンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、マフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。

JCA20772

注 意

- **非常時にスターター／エンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、必ず車両の電源をオフにしてください。オンのままですと、バッテリーあがりの原因となります。**
- **走行中に、スターター／エンジンストップスイッチを “◯” → “⊠” → “◯” にしないでください。エンジン不調の原因となります。**

要 点

“⊠” にすると、エンジンは始動できません。

JAUA0400

ハザードスイッチ “OFF/⚠”

車両の電源をオンにした状態で、このスイッチを使用してハザードランプを点滅させます（全ての方向指示器が点滅します）。
ハザードランプは、故障などの非常時に他車に知らせるために使用します。

ハザードランプは、車両の電源をオンにした状態のみでオンとオフを切り替えることができます。車両の電源をオフ、または LOCK にしてもハザードランプは点滅し続けます。ハザードランプを消灯させるには、車両の電源をオンにした状態で、ハザードスイッチを再度操作してください。

JCA11891

注 意

バッテリーあがりを防ぐため、ハザードランプを長時間使用しないでください。

JAU63041

ABS

この車の ABS（アンチロックブレーキシステム）は、フロントブレーキとリヤブレーキに独立して働くデュアルエレクトロニックコントロールシステムを特徴としています。ABS は ECU（エレクトロニックコントロールユニット）によってモニターされており、ECU が故障を検知した場合には通常のブレーキの状態になります。

JWA15363

⚠ 警 告

- **ABS は制動距離を短くする装置ではありません。**
- **未舗装路や砂利道など路面の状況により、ABS のない車に比べて制動距離が長くなることがあります。速度はひかえめにし、車間距離を十分にとってください。**

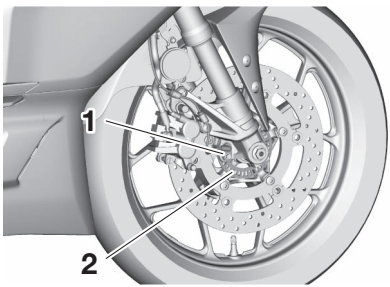
要 点

- ABS が作動していても、ブレーキは通常の方法で使用できます。ブレーキレバーまたはブレーキペダルに振動が感じられるかもしれませんが、故障ではありません。
- このABSには、ABSが作動している状態（ブレーキレバーまたはブレーキペダルに振動を感じる）を体感できるテストモードがあります。ただし、特殊工具が必要となりますので、ヤマハ販売店にご相談ください。

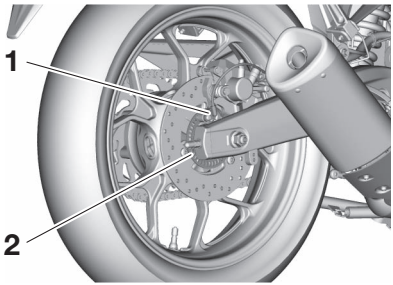
JCA20100

注 意

ホイールセンサーやホイールセンサーローターを傷つけないでください。ABS の性能が低下するおそれがあります。



1. フロントホイールセンサー
2. フロントホイールセンサーローター



1. リヤホイールセンサー
2. リヤホイールセンサーローター

JAU13078

フューエルタンクキャップ

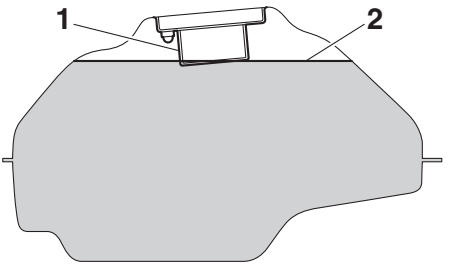
JWA12172

⚠ 警 告

給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

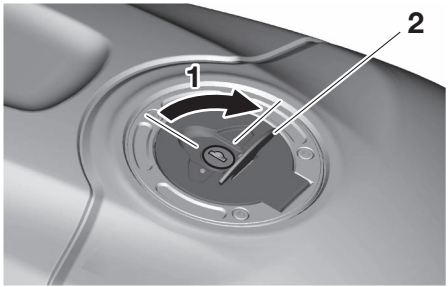
- **給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。**

- フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があり、ヤケドするおそれがあります。
- 給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。
- 給油は、必ず屋外で行ってください。
- セルフサービスのガソリンスタンドで給油するときは、ガソリンの吹きこぼれがないよう、慎重に給油してください。
- 給油限度（フィラーチューブ下端まで）を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。
- 給油後、フューエルタンクキャップを確実に閉めてください。



1. フィラーチューブ
2. 給油限度

フューエルタンクキャップの開けかた



1. 解除
2. ロックカバー

1. ロックカバーを開けます。
2. キーを差し込み、時計方向に 1/4 回してロックを解除します。
3. フューエルタンクキャップを開けます。

フューエルタンクキャップの閉めかた

1. キーを差し込んだ状態でフューエルタンクキャップを押して閉めます。
2. キーを反時計方向に回してロックし、抜き取ります。
3. ロックカバーを閉めます。

要　点

キーを抜き取ると、フューエルタンクキャップを閉めることはできません。また、フューエルタンクキャップを正しく閉めないと、キーを抜き取ることはできません。

JAU31461

燃料

JAU28313

指定燃料

指定燃料：
　無鉛レギュラーガソリン
タンク容量：
　約14 L

JCA12512

注 意

- 必ず指定燃料を使用してください。高濃度アルコール含有燃料や軽油、粗悪ガソリンなど、指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。
- こぼれたガソリンは、布切れなどできれいにふき取ってください。
- タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。

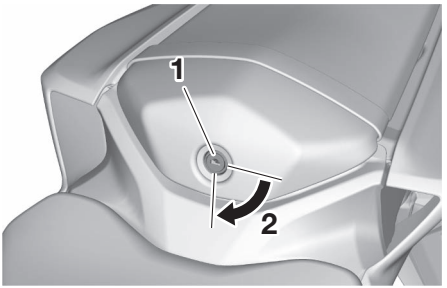
JAUA3281

シート

タンデムシート

タンデムシートの取り外しかた

1. キーをシートロックに差し込み、時計方向に回します。



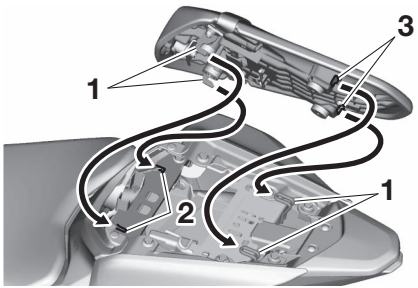
1. シートロック
2. 解除

2. タンデムシートの前部を少し持ち上げ、前方向にずらしながらタンデムシートを取り外します。

タンデムシートの取り付けかた

1. キーをシートロックに差し込み、時計方向に回します。

2. フレームにある突起をタンデムシートの孔に差し込み、タンデムシートの前部にある突起を図のようにしてシートホルダーに差し込みます。



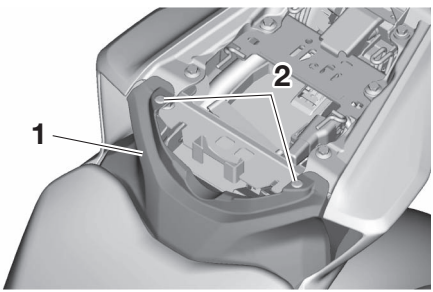
1. 突起
2. シートホルダー
3. 孔

3. キーを時計方向に回したまま、タンデムシートの後部を押し下げてタンデムシートをロックします。
4. キーを反時計回りに回転させて差し込み位置まで戻し、キーを抜き取ります。

ライダーシート

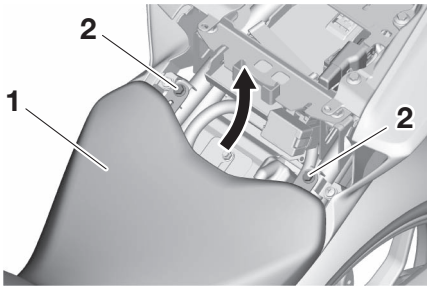
ライダーシートの取り外しかた

1. タンデムシートを取り外します。
2. クイックファスナーを外し、タンデムシート前側のセンターカバーを取り外します。

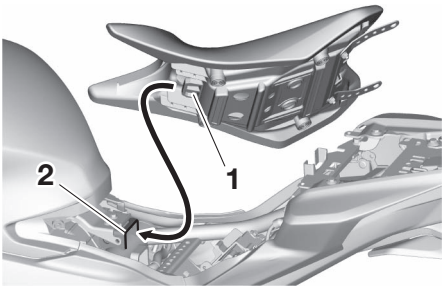


1. センターカバー
2. クイックファスナー

3. ボルトを外し、ライダーシートの後部を少し持ち上げて後方向に引き、ライダーシートを取り外します。



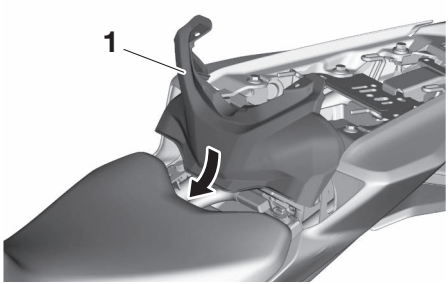
1. ライダーシート
2. ボルト



1. 突起
2. シートホルダー

ライダーシートの取り付けかた

1. ライダーシートの前部にある突起を図のようにしてシートホルダーに差し込みます。
2. ボルトを締め付けます。
3. 図のようにセンターカバーを取り付け、クイックファスナーを取り付けます。



1. センターカバー

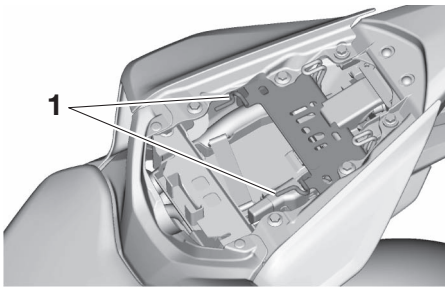
4. タンデムシートを取り付けます。

要　点

走行前に、必ず、シートが確実にロックされているか確認してください。

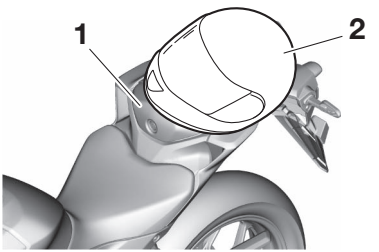
JAUA3480

ヘルメットホルダー



1. ヘルメットホルダー

キーでシートロックを解除し、タンデムシートを取り外します。(4-27 ページ参照)
ヘルメットのあごひもの金具部分をヘルメットホルダーに掛け、シートを取り付けます。



1. タンデムシート
2. ヘルメット

JWA11651

⚠警 告

ヘルメットをヘルメットホルダーに掛けたまま走行しないでください。ヘルメットが運転を妨げ、思わぬ事故の原因になったり、車の部品に損傷を与えたり、またヘルメットにも損傷を与え保護機能を低下させます。

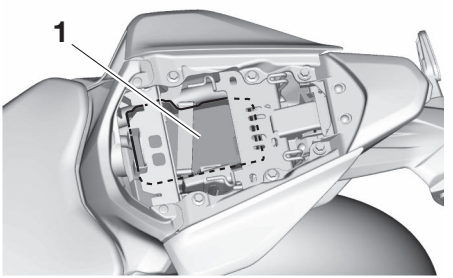
JAU63900

書類入れ

タンデムシートを外すと書類入れ（収納用ポーチ）があります。(4-27 ページ参照) 自賠責保険証、メンテナンスノートはビニール袋に入れ、書類入れに保管してください。書類入れは二つ折りにして小物入れに保管してください。

JAUA3550

小物入れ



1. 小物入れ

タンデムシートの下に小物入れがあります。(4-27 ページ参照)

JCA12972

注 意

小物入れを使用する時は以下の点に注意してください。

- **洗車をすると中に水が入ることがあります。大切な物は、ビニール袋などに入れて収納してください。**
- **濡れた物は、ビニール袋に入れてから収納してください。濡れたまま収納すると、小物入れ内にカビなどが発生することがあります。**
- **貴重品やこわれやすい物は入れないでください。**
- **小物入れ内は直射日光などで温度が高くなります。熱の影響を受けやすい物は入れないでください。**

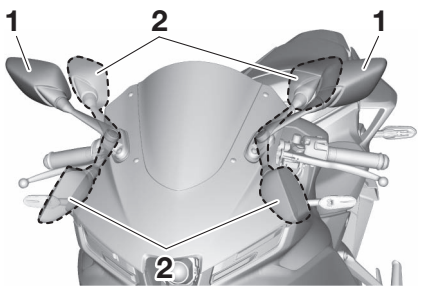
要 点

車から離れるときは、必ずシートをロックしてください。

JAU39672

バックミラー

この車のバックミラーは、狭いスペースで駐車するために前方または後方に折りたたむことができます。乗車する前に、バックミラーを元の位置に折り返してください。



1. 乗車するときの位置

2. 駐車するときの位置

JWA14372

⚠警 告

乗車する前には、必ずバックミラーを元の位置に折り返すようにしてください。

4

JAUA3470

リヤクッションの調整

リヤクッションには、スプリングプリロードアジャスターが装備されています。

JWA12441

⚠警 告

シートに人を乗せて調整をしないでください。車が動き、手などに思わぬケガをすることがあります。

JCA10102

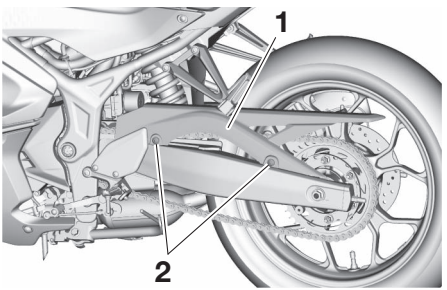
注 意

調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

スプリングプリロード

要 点

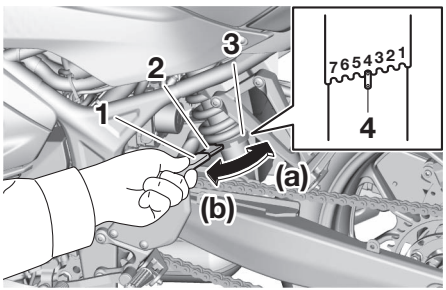
リヤクッションの調整を行うには、チェーンケースを取り外す必要があります。



1. チェーンケース
2. ボルトとカラー

1. ボルトとカラーを外し、チェーンケースを取り外します。

2. プリロードアジャスターを (a) 方向に回すと、スプリングプリロードが大きくなり、(b) 方向に回すと小さくなります。



1. エクステンション
2. 調整レンチ
3. スプリングプリロードアジャスター
4. インジケーター

要　点

● アジャスターの切り欠きを、リヤクッションのインジケーターに合わせます。

● サービスツール内の調整レンチとエクステンションを使って調整を行います。

スプリングプリロード：
最小（ソフト）：
1段
標準：
4段
最大（ハード）：
7段

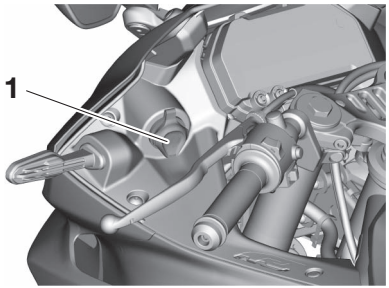
3. チェーンケースとカラーを取り付け、ボルトを締め付けます。

締め付けトルク:
チェーンケースボルト:
10 N·m (1.0 kgf·m)

JAU70642

DC コネクター

この車には、オプションの電装アクセサリーを取り付けるために、DC コネクターが搭載されています。
コネクタの位置や容量および取り付け可能なアクセサリーについては、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。



1. USB ジャックキャップ

JAUN3290

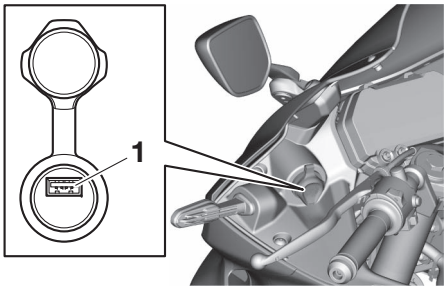
クイックシフターコネクター

この車にはクイックシフターコネクターが搭載されています。ご使用については、お買いあげのヤマハ販売店にご相談ください。

JAUA3640

USB Type-A ジャック

この車には、5V 2A の USB Type-A ジャックが搭載されています。USB Type-A ジャックは、車両の電源がオンのときに使用できます。



1. USB Type-A ジャック

要　点

条件によっては、USB が接続されていても、デバイスのバッテリー残量が低下することがあります。

JCA28690

注 意

- **USB Type-A ジャックを水や衝突から保護するために、USB Type-A ジャックを使用しない場合は、キャップを取り付けてください。**
- **破損を防ぐため、USB ジャックのキャップを開閉する際は、無理な力を加えないようにしてください。**
- **USBジャックキャップが正しく取り付けられていることを確認し、雨天時や洗車時には USB Type-A ジャックを使用しないでください。USB Type-A ジャックが濡れた場合は、車両の電源を切った状態で乾かしてから使用してください。**
- **USB Type-A ジャックに接続されたケーブルを引っ張ったり、力を加えたりしないでください。**

JAU15306

サイドスタンド

サイドスタンドはフレームの左側にあります。車を直立にした状態で、足でサイドスタンドを上げ下げします。

要　点

この車にはサイドスタンドスイッチが装備されています。(サイドスタンドスイッチについては次の項目を参照してください。)

JWA10242

⚠警　告

サイドスタンドを下ろした状態で、またはサイドスタンドが正しく上がらない（上がった状態にならない）場合、車を運転しないでください。サイドスタンドが地面に接し、操縦安定性を損なうことがあります。ヤマハのイグニッションサーキットカットオフシステムは、発進前にサイドスタンドの上げ忘れを防止するよう設計されています。従って、定期的にこのシステムを点検してください。正しく機能しない場合にはヤマハ販売店に修理を依頼してください。

JAUA3290

イグニッションサーキットカットオフシステム

このシステムは、ギヤがニュートラル以外に入っているときのエンジン始動を制御します。サイドスタンドが上がっているがクラッチレバーが握られていないとき、もしくはクラッチレバーを握っているがサイドスタンドが下がっているときは、エンジン始動はできません。また、ギヤがニュートラル以外に入った状態でサイドスタンドを下げると、エンジンが停止します。

イグニッションサーキットカットオフシステムの作動を、以下の手順に従って適時点検してください。

要　点

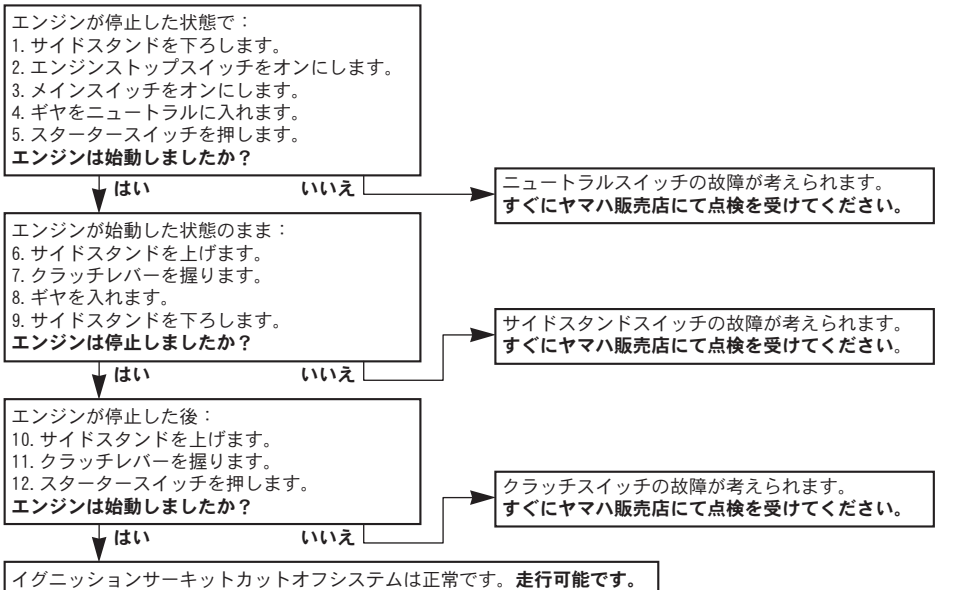
- この点検は、エンジンが暖まった状態で行ってください。

- スイッチ操作については、4-1 ページ、4-20 ページを参照してください。

JWA11541

⚠ 警 告

点検の結果異常があった場合は、走行前にヤマハ販売店でシステムの点検を受けてください。


エンジンが停止した状態で：
1. サイドスタンドを下ろします。
2. エンジンストップスイッチをオンにします。
3. メインスイッチをオンにします。
4. ギヤをニュートラルに入れます。
5. スタータースイッチを押します。
エンジンは始動しましたか？
はい
いいえ
ニュートラルスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。
エンジンが始動した状態のまま：
6. サイドスタンドを上げます。
7. クラッチレバーを握ります。
8. ギヤを入れます。
9. サイドスタンドを下ろします。
エンジンは停止しましたか？
はい
いいえ
サイドスタンドスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。
エンジンが停止した後：
10. サイドスタンドを上げます。
11. クラッチレバーを握ります。
12. スタータースイッチを押します。
エンジンは始動しましたか？
はい
いいえ
クラッチスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。
イグニッションサーキットカットオフシステムは正常です。走行可能です。

JAU1559B

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、法または法に準じ、日常の車の使用状況に応じて、使用する人の判断で適時行う点検です。

JWA12032

⚠ 警 告

- **日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

要 点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。（モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。）

JAU30142

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、7-1 ページ以降の点検整備の方法および別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

点検箇所	点検内容
ブレーキ	● ブレーキペダルの踏みしろおよびレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。 ● ブレーキ液の量が適当であること。
タイヤ	● タイヤの空気圧が適当であること。 ● 亀裂、損傷がないこと。 ● 異常な摩耗がないこと。 ● 溝の深さが充分あること。（※）

点検箇所	点検内容
エンジン	● 冷却水の量が適当であること。(※) ● エンジンオイルの量が適当であること。(※) ● かかり具合が良好で、かつ、異音がないこと。(※) ● 低速、加速の状態が適当であること。(※)
灯火装置および方向指示灯	● 点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	● 当該箇所に異常がないこと。

(注)
※ 印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期（長距離走行時や洗車、給油後など）に実施をしてください。

JWA11733

⚠警 告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。点検整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
- **エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。**
- **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。**
- **走行して点検するときは、交通状況に注意してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

JAU31471

ならし運転

JAU27665

ならし運転のしかた

初回 1 か月目（または 1000 km 走行時）の点検までは、ならし運転をしてください。
ならし運転中はエンジン回転数を 8400 r/min 以下で走行してください。
また、不要な空ぶかしや急加速、急減速はしないでください。
ならし運転を行うと車の寿命を延ばします。

JAU63980

エンジン始動

JWA11562

⚠ 警 告

- **エンジンを始動するときには、4-37 ページに記述された手順で、イグニッションサーキットカットオフシステムの機能を点検してください。**
- **サイドスタンドを下ろした状態で走行しないでください。**

1. メインスイッチを “○” にし、エンジンストップスイッチが “○” にセットされていることを確認します。
2. ギヤをニュートラルにします。

要 点

ギヤをニュートラルにしたとき、ニュートラルランプが点灯しない場合、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

3. スロットルを完全に閉じます。
4. スタータースイッチを押して、エンジンを始動します。

要 点

スタータースイッチで 5 秒以内にエンジンが始動しないときは、バッテリー電圧を回復させるため、10 秒位休ませてからスタータースイッチを押してください。

JCA16661

注 意

- **エンジンを長持ちさせるため、エンジンが冷えている間の急加速や、無用な空ぶかしは避けてください。**
- **長時間のアイドリングはガソリンのムダ使いになるだけでなく、環境への悪影響にもなりますので、やめてください。**
- **通常のアイドリング回転数を必要以上に高くした状態（スロットルグリップを開けて固定した状態など）で、長時間放置しないでください。温度上昇により、エンジンまたは車両が損傷する場合があります。**

JAU73452

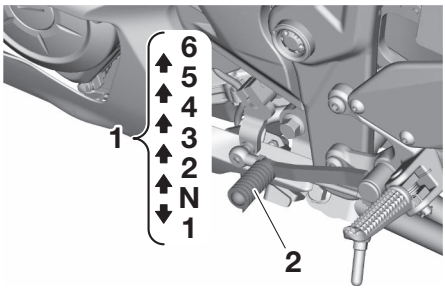
要 点

この車は、以下の機構を装備しています。

- メインスイッチがオンのときに車体が転倒した状態になると、エンジンを停止させます。また、この機構が働くと車体を起こしてもエンジン停止の制御が継続されるため、スターターモーターは回転してもエンジンを始動することができません。そのまま始動操作を続けるとバッテリー上がりの原因になることがありますので、このような状態になった場合は、メインスイッチを一旦オフにして再度オンにするリセット操作をしてください。
- 車両が停止した状態で20分間以上エンジンがかかったままになっていると、エンジンを停止させます。この機能でエンジンが停止した場合は、スタータースイッチを押せば再始動が可能です。

JAU27517

ギヤチェンジのしかた



1. ギヤの位置
2. シフトペダル

この車はリターン式の 6 段変速です。
ギヤチェンジは、スロットルグリップを一度戻してからクラッチレバーを握り、シフトペダルで操作します。

要　点

ニュートラル（**N**）にシフトするには、繰り返しシフトダウンして 1 速ギヤの位置になったところで、わずかにシフトアップします。

JCA10262

注 意

- **シフトペダルは、踏みごたえがあるまで確実に操作してください。**
- **ギヤがニュートラル位置であっても、エンジンを停止したまま長い間惰性走行を行ったり、長い距離をけん引したりしないでください。エンジンが停止しているとトランスミッションの潤滑が不十分になり、トランスミッションが損傷するおそれがあります。**
- **クラッチレバーを確実に握らずにギヤチェンジしたり、無理なギヤチェンジは、チェンジ機構の故障の原因になります。**

JAU64130

ギヤチェンジの速度

各ギヤでの走行速度およびシフトダウンのギヤチェンジは、以下の速度を目安として行ってください。

走行速度

1速: 0 km/h–55 km/h
2速: 15 km/h–80 km/h
3速: 20 km/h–105 km/h
4速: 25 km/h–125 km/h
5速: 30 km/h–145 km/h
6速: 35 km/h 以上

シフトダウン速度

6速 → 5速: 115 km/h 以下
5速 → 4速: 100 km/h 以下
4速 → 3速: 80 km/h 以下
3速 → 2速: 65 km/h 以下
2速 → 1速: 45 km/h 以下

JWA20720

⚠ 警 告

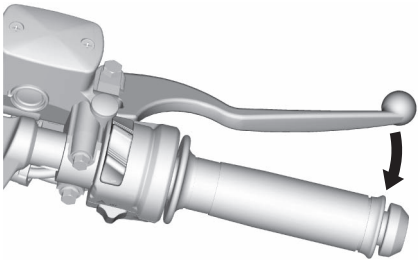
法定速度を守って走行してください。

JAU33176

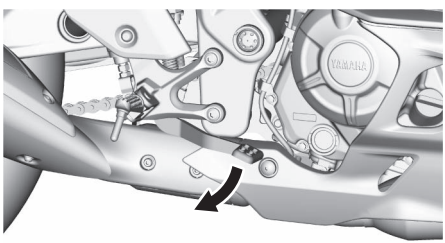
ブレーキ

1. スロットルを完全に閉じます。
2. フロントブレーキとリヤブレーキを同時に、徐々にかけます。

<フロントブレーキ>



<リヤブレーキ>



JWA11573

⚠警 告

- 急なブレーキ操作は避けてください（特にどちらか一方に傾いているとき）。横すべりや転倒の原因となります。
- 踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは減速し、注意して走行してください。
- 濡れた路面では、ブレーキがききにくいことを留意してください。
- 下り坂でのブレーキ操作は非常に困難です。下り坂に差しかかる前までに充分減速してください。
- 連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキ部の温度が上昇し、ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。

JCA26500

注 意

- 上り坂で停止するときは、ブレーキを使用してください。スロットルグリップならびにクラッチの操作で車を保持すると、クラッチなどが発熱して故障の原因となったり、エンジン警告灯が点灯したりするおそれがあります。
- 不要な空ぶかしをしないでください。エンジン警告灯が点灯するおそれがあります。

JAU17214

駐車

駐車するときは、エンジンを止め、キーをメインスイッチから抜きます。

JWA11582

⚠警 告

- エンジンやマフラーは高温になります。通行する人などが触れない場所に駐車してください。
- 草や可燃物などの火災の危険がある場所には、決して駐車しないでください。
- 傾斜地や地面が柔らかいところには駐車しないでください。車が転倒することがあります。

JAU29839

点検整備の実施

日常点検

5-1 ページ「日常点検箇所／点検内容」の表にしたがって、適時実施してください。点検の方法については、本書の以降のページや、別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降のページを参照してください。

定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、1年点検と 2 年点検の 2 種類があります。
定期点検項目と基本的な点検内容は別冊の「メンテナンスノート」に記載してあります。ここでは、この車独自の内容を補足説明しています。実際の点検作業にあたっては、別冊「メンテナンスノート」とあわせてご使用ください。

JWA12055

⚠ 警 告

- **点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。**
- **安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。**
- **点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。**
  - **点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。**
  - **エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。**
  - **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。**

- **走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。**
- **異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。**

JWA15461

⚠警 告

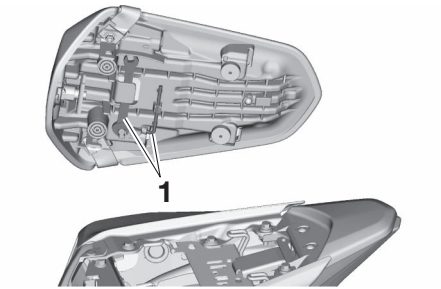
走行直後はブレーキ関係の部品に直接触れないでください。ブレーキディスク、キャリパー、ドラム、ライニングなどは使用すると高温になり、ヤケドするおそれがあります。点検整備はブレーキ関係の部品が充分に冷えてから行ってください。

要 点

- 点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。（モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。）
- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

JAU85240

サービスツール



1. サービスツール

サービスツールは図で示す場所にあります。また、車両購入時に別に手渡されるサービスツールがあります。

JAU30378

エンジンオイル

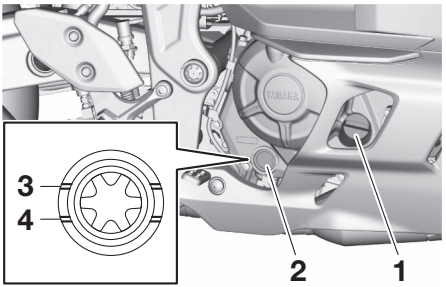
エンジンオイル量の点検

1. 平坦な場所でエンジンを2～3分間アイドリング運転します。

要　点

走行直後でエンジンが充分に暖まっていれば、アイドリング運転は不要です。

2. エンジンを止めて車を垂直にし、オイルレベルが安定するまで数分間待ちます。その後、オイル点検窓でエンジンオイル量を点検します。

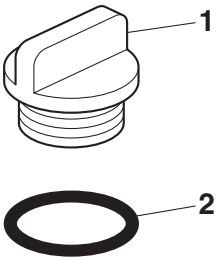


1. オイル注入口
2. エンジンオイル点検窓
3. フルレベル
4. ロアレベル

3. オイル量がロアレベル以下のときは、オイル注入口から補給します。（推奨エンジンオイルについては、8-6 ページ参照）

要　点

O リングに損傷がないか点検し、損傷がある場合は交換してください。



1. オイル注入口キャップ
2. O リング

JAU65951

エンジンオイルの交換時期

初回：
1か月点検時または1000 km時
2回目：
5000 km時
3回目以降：
5000 km走行ごと、または1年ごと
エンジンオイル量：
オイル交換時:
2.00 L
オイルフィルター取り外し時:
2.30 L

定期交換時期の前でも、エンジンオイルの汚れが著しいときやエンジンオイルが薄茶色に濁っているときは、早めにエンジンオイルを交換してください。汚れや濁りの程度については、ヤマハ販売店にご相談ください。

オイルフィルターカートリッジの交換時期

初回：
1か月点検時または1000 km時
2回目：
15000 km時
3回目以降：
15000 km走行ごと

JWA11861

⚠警 告

- **走行後など、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。**
- **油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられています。ヤマハ販売店にご相談ください。**

JCA12261

注 意

- **化学添加剤は一切加えないでください。**
- **補給時に、オイル注入口からゴミなどが入らないように注意してください。**

- **オイルをこぼしたときは、布などでよくふきとってください。**

JAU30691

エンジンのかかり具合、異音の点検

エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。
エンジンから異音がしないかを点検します。

JAU44194

低速、加速の状態の点検

低速、加速の状態の点検前に以下の点検を行ってください。

- エンジンを停止した状態でスロットルグリップをゆっくり回し、引っ掛かりがなくスムーズに作動することと、手を離したときにスロットルグリップがスムーズに戻ることを点検してください。また、ハンドルを左右にいっぱいに切った状態でも同じ点検を行ってください。
- スロットルケーブルに劣化や損傷などがないか点検してください。また、取り付けの状態も点検してください。
- スロットルケーブルには、ゴムカバーが取り付けられているものがあります。ゴムカバーが確実に取り付けられていることを確認し、洗車時にはゴムカバーに直接水をかけないようにしてください。ゴムカバーの汚れがひどい場合には、水で濡らして固くしぼった布などでふき取ってください。

JWA15531

⚠ 警 告

ケーブル、ワイヤー類に異常があるときは、早めにヤマハ販売店にご相談ください。異常がある状態で使用を続けると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

アイドリングがスムーズに続くかを点検します。
スロットルグリップを徐々に回してエンジンを加速したとき、スロットルグリップもエンジンもスムーズに回るかを走行などして点検

します。このとき、エンジンストール（エンスト）やノッキングなどが起きたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU20071

冷却水

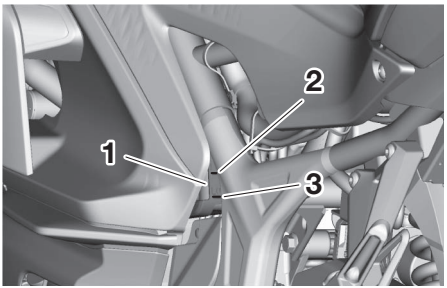
JAUA3331

冷却水量の点検

要　点

冷却水量の点検は、エンジンが冷えた状態で、車を平坦なところで垂直にして行ってください。

リカバリータンク内の冷却水量が、フルレベルとロアレベルの範囲内にあるかを点検します。



1. リカバリータンク
2. フルレベル
3. ロアレベル

冷却水がロアレベル以下のときは、ヤマハ販売店へ冷却水の補充を依頼してください。

JCA12121

注　意

- **フルレベル以上は入れないでください。**
- **冷却水の交換は、ヤマハ販売店で行ってください。**

JAUT1992

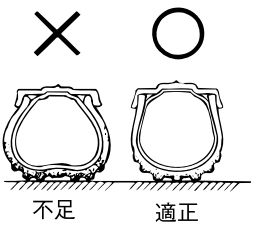
エアクリーナーエレメントの交換

定期的なエアクリーナーエレメントの交換、ブリーザードレンホースの清掃が必要です。
エアクリーナーエレメントの交換は、ヤマハ販売店へ依頼してください。
ほこりの多い場所や湿気の多い場所を走行する機会が多い場合は、より短い期間で交換する必要があります。ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU65360

タイヤ

空気圧



タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。
空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。
この車はチューブレスタイヤを装着しています。

タイヤ空気圧（冷間時）：
1名乗車：
前輪：
200 kPa (2.00 kgf/cm²)
後輪：
225 kPa (2.25 kgf/cm²)
2名乗車：
前輪：
200 kPa (2.00 kgf/cm²)
後輪：
225 kPa (2.25 kgf/cm²)

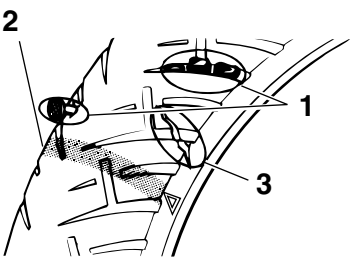
要　点

- タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも 1 か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
- 空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

JAU28642

タイヤの亀裂、損傷の点検

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。
この車はチューブレスタイヤを装着しています。タイヤの接地面や側面に釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検し、異常があったときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。



1. 異物（釘、石など）
2. ウェアインジケーター（摩耗限度表示）
3. 亀裂、損傷

要　点

道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きなくぼみや突起物を乗り越したときは、必ず点検してください。

JAU28701

タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU28776

タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さをウェアインジケーターで点検します。ウェアインジケーターがあらわれたら、タイヤを交換してください。

要　点

- ウェアインジケーターはタイヤの溝が 0.8 mm になるとあらわれます。
- 安定したコーナリングや操縦性などを確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的に二輪車のタイヤは溝の深さが前輪 1.6mm、後輪 2.0mm以下になりましたら交換をおすすめします。

JWA11914

⚠ 警　告

- **タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用し、前後とも同じ銘柄のものを使用してください。指定タイヤ以外のタイヤや前後で異なった銘柄のタイヤを使用すると、操縦安定性に影響をおよぼすおそれがありますので使用しないでください。**
- **過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり減ったタイヤは交換してください。**
- **タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。**

タイヤサイズ：
前輪：
110/70-17M/C 54S
後輪：
140/70-17M/C 66S
指定タイヤ：
前輪：
IRC/RX-01F
後輪：
IRC/RX-01R

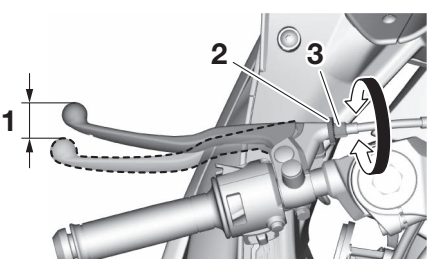
JAU79392

クラッチ

クラッチレバーの遊び

クラッチレバーを手で抵抗を感じるまで引き、レバー先端部の遊びの量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

クラッチレバーの遊び
10.0–15.0 mm



1. 遊び
2. ロックナット
3. アジャスター

点検の結果、調整が必要な場合は、ロックナットをゆるめてアジャスターで調整します。

JWA11841

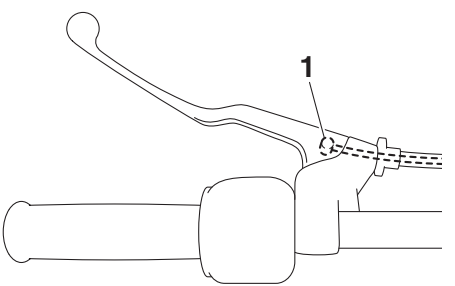
⚠警 告

調整後、エンジンをかけてギヤチェンジがスムーズにできるか、エンストなどしないかを確認してください。なお、車の飛び出しに注意してください。

JCA12092

注 意

- 調整後は、ロックナットを確実に締め付けます。
- 1 か月に一度はクラッチケーブルの取り付け部に注油をしてください。



1. ケーブル取り付け部

JAU31122

ブレーキレバーの遊び／ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検

ブレーキの遊びの点検

ブレーキレバーおよびブレーキペダルの遊びはありません。ブレーキを手で作動させ、手ごたえがあるかどうかを確認します。

JWA11741

⚠ 警 告

ブレーキレバーの引き具合、ブレーキペダルの踏み具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、フロントブレーキ、リヤブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。

ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA11761

⚠ 警 告

走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

JAU36505

ブレーキランプスイッチの点検

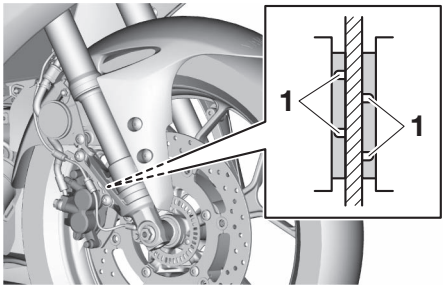
ブレーキがきき始める直前にブレーキランプが点灯するか点検します。ブレーキランプはABS の構成部品ですので、異常があるときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU29582

ブレーキパッドの点検

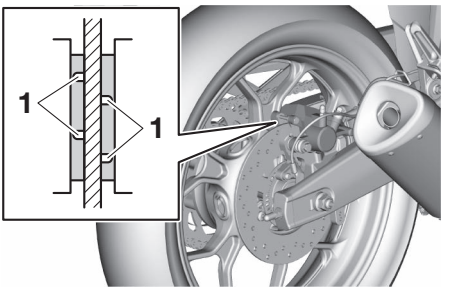
ブレーキパッドのインジケーター溝の深さで摩耗の状態を点検します。
インジケーター溝がなくなったら、ヤマハ販売店でブレーキパッドを交換してください。

＜フロントブレーキ＞



1. インジケーター溝

<リヤブレーキ>

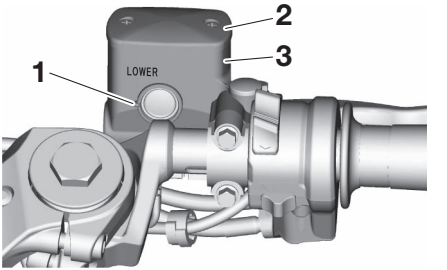


1. インジケーター溝

JAU44233

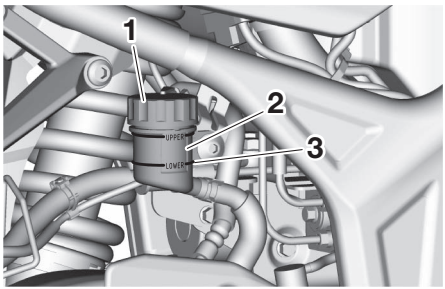
ブレーキ液量の点検

<フロントブレーキ>



1. ロアレベル
2. ブレーキリザーバータンクキャップ
3. リザーバータンク

<リヤブレーキ>



1. ブレーキリザーバータンクキャップ
2. リザーバータンク
3. ロアレベル

ブレーキリザーバータンクキャップ上面を水平にして、リザーバータンク内の液量がロアレベル以上にあるかを点検します。
液量がロアレベル以下のときは、販売店へブレーキ液の補給を依頼してください。

JWA12152

⚠ 警 告

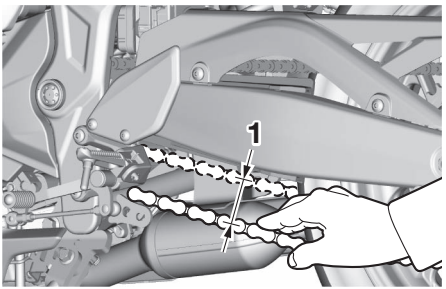
- **ブレーキ液の減りが著しいときは、ブレーキ系統の液漏れが考えられます。販売店で点検・整備を受けてください。**
- **ブレーキ液は安全のために 2 年ごとに交換してください。**

JAU22762

ドライブチェーン

JAU74253

ドライブチェーンの点検



1. ドライブチェーンのたわみ量

ギヤをニュートラルにしてサイドスタンドを立てます。前後スプロケット間のチェーン中央部を手で上下に動かし、たわみ量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

要　点

ドライブチェーンのたわみ量を点検するときは、車体に荷重を掛けないで行います。

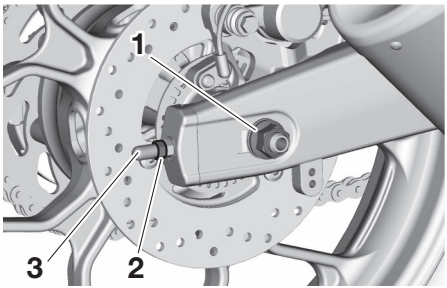
ドライブチェーンたわみ量：
35.0–45.0 mm

ドライブチェーンのたわみ量が規定の範囲にない場合は、たわみ量を調整します。
ドライブチェーンたわみ量の調整は、ヤマハ販売店にご相談ください。
また、車体を前後にゆっくり動かしてチェーンが滑らかに回転するか、給油は充分かを点検します。

JAU62983

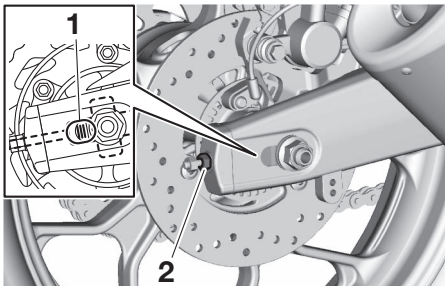
ドライブチェーンたわみ量の調整

1. チェーンプラーキャップを取り外し、セルフロッキングナットとロックナットをゆるめます。



1. セルフロッキングナット
2. ロックナット
3. チェーンプラーキャップ

2. チェーンのたわみ量が規定値になるようにアジャスターで調整します。



1. 刻み目盛り
2. アジャスター

要　点

刻み目盛りを左右同じ位置にします。

3. 調整後、セルフロッキングナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
セルフロッキングナット：
57 N·m (5.7 kgf·m)

4. ロックナットを規定のトルクで締め付けます。

締め付けトルク：
ロックナット：
16 N·m (1.6 kgf·m)

5. 左右の刻み目盛りが同じ位置にあるか、ドライブチェーンたわみ量が規定の範囲にあるか、チェーンが滑らかに回転するか確認します。
6. チェーンプラーキャップを取り付けます。

JAU23027

ドライブチェーンの給油

1. リヤホイールを浮かし、ホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンやスプロケットに付着した泥や汚れを柔らかいブラシなどで落とします。その後、ヤマルーブ スーパーチェーンクリーナーで洗浄します。
2. チェーンを乾燥させた後、リヤホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンにヤマルーブ 180 チェーンオイルを給油します。

JCA12471

注 意

この車はシールチェーンを採用しています。取り扱いには以下の点に注意してください。
- **スチーム洗浄はしないでください。**
- **シンナー、ガソリンなどの揮発性溶剤やワイヤーブラシを使用して洗浄しないでください。**

JAU28621

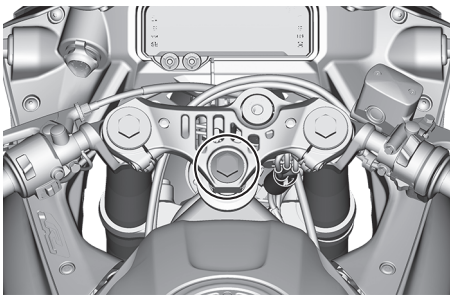
車体各部の給油脂状態の点検

車体各部の給油脂状態が充分であるかを点検します。
異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU28651

アンダーブラケットの取り付け状態の点検（ステアリングステム）

アンダーブラケットの締付ボルトまたは締付ナットに、ゆるみがないかを工具で点検します。



締付ボルトまたは締付ナットにゆるみがあるときは、ヤマハ販売店で規定トルクでの締め付けを依頼してください。

JAU28762

バッテリー

バッテリーの点検

この車のバッテリーは密閉式です。
バッテリー液の補充、点検は不要です。
バッテリーに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、バッテリーを取り外して清掃します。

JWA11811

⚠ 警 告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- **火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。**
- **補充電は風通しのよいところで行ってください。**

- ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。
- 落下などの強い衝撃を加えないでください。
- バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。
- 子供の手の届くところに置かないでください。

応急手当

- 万一、バッテリー液が皮膚、衣服などについたときはすぐに多量の水で洗い流してください。
- 目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。

JCA12142

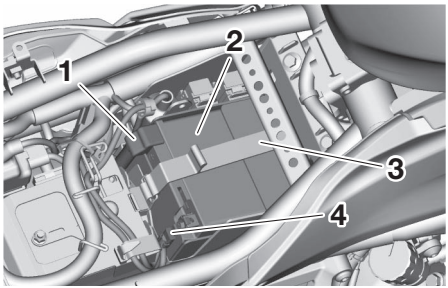
注 意

- このバッテリーは密閉式の 12V です。
- このバッテリーは液入り充電済です。液量点検および補水は必要ありません。
- 補充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。くわしくはヤマハ販売店にご相談ください。
- 長期間ご使用にならないときは、3か月ごとに補充電してください。
- バッテリーを交換するときは、必ず同型式のバッテリーを使用してください。

JAU63960

バッテリーの取り外し

1. ライダーシートを取り外します。(4-27 ページ参照)
2. バッテリーバンドを外します。



1. +リード線
2. バッテリー
3. バッテリーバンド
4. −リード線

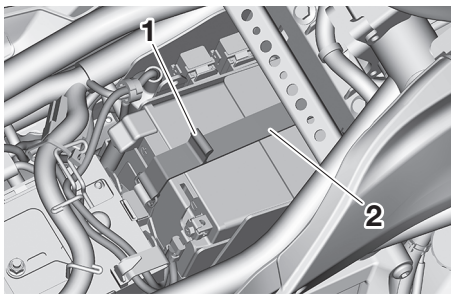
3. −（マイナス）側リード線を外し、次に＋（プラス）側リード線を外します。
4. バッテリーを取り外します。

バッテリーの取り付け

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

要　点

バッテリーバンドは図のように突起部が上側になるように取り付けてください。

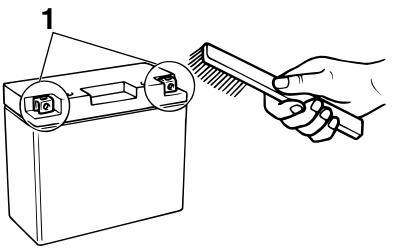


1. 突起
2. バッテリーバンド

JAU29411

ターミナル部の清掃

バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、やわらかいブラシなどで清掃します。また、白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ります。



1. ターミナル

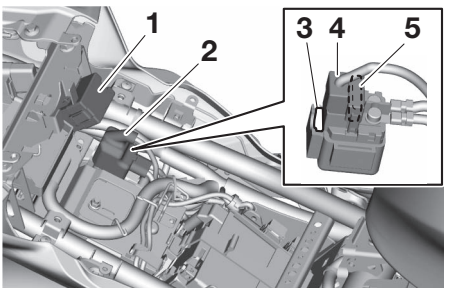
JAUA3361

ヒューズ交換

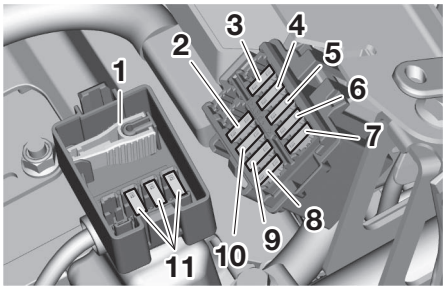
メインヒューズとヒューズボックスはタンデムシート前側のセンターカバーを外したところにあります。（4-27 ページ参照）

要　点

メインヒューズを交換する場合は、スターターリレーカバーを外し、スターターリレーカプラーを抜き取る必要があります。



1. ヒューズボックス
2. スターターリレーカバー
3. スペアメインヒューズ
4. スターターリレーカプラー
5. メインヒューズ



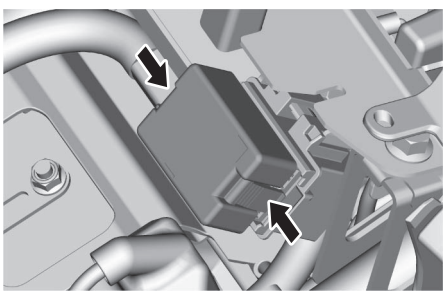
1. ヒューズプラー
2. ABS モーターヒューズ
3. DC ターミナルヒューズ 1
4. ヘッドライトヒューズ
5. ABS コントロールユニットヒューズ
6. シグナルヒューズ
7. イグニッションヒューズ
8. バックアップヒューズ
9. ラジエターファンモーターヒューズ
10. ABS ソレノイドヒューズ
11. スペアヒューズ

ヒューズが切れた場合は、以下のように交換します。

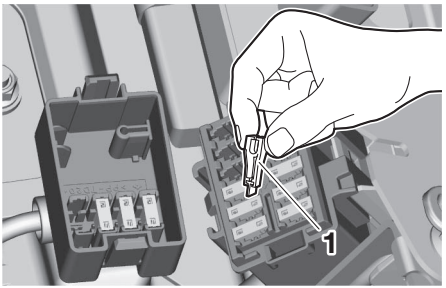
要　点

ヒューズを取り外すときは、ヒューズプラーをご使用ください。

1. 車両の電源をオフにします。
2. 図のように、ヒューズボックスカバーの 2 点を内側に押しながら上方向に引き、カバーを取り外します。

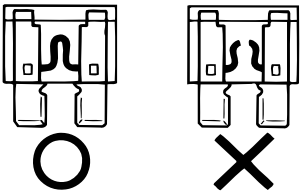


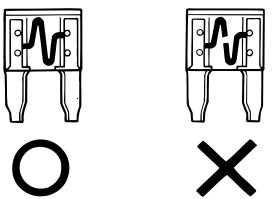
3. ヒューズプラーで切れたヒューズを外します。



1. ヒューズプラー

4. 規定アンペア数の新しいヒューズを取り付けます。





規定ヒューズ：
メイン:
30.0 A
DCターミナル 1:
7.5 A
ヘッドライト:
7.5 A
シグナル:
7.5 A
イグニッション:
15.0 A
ラジエターファンモーター:
7.5 A
ABSモーター:
30.0 A
ABSソレノイド:
15.0 A
ABSコントロールユニット:
7.5 A
バックアップ:
7.5 A

JCA12862

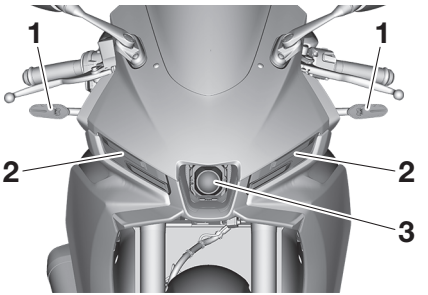
注 意

- **交換するヒューズは、指定されている容量のヒューズを使用してください。指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。**
- **電装品類（ライト、計器など）を取り付けるときは、車種ごとに決められている「ヤマハ純正部品」を使用してください。それ以外のものを使用すると、ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。**
- **洗車時ヒューズボックスのまわりに水を強く吹き付けないでください。漏電や短絡（ショート）の原因になります。**

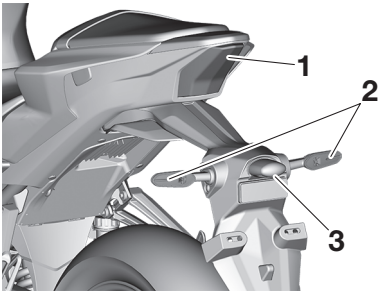
5. 車両の電源をオンにし、装置が正しく作動することを点検します。
6. ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。
7. ヒューズプラーを戻し、ヒューズボックスカバーを取り付けます。

JAU29447

灯火装置および方向指示灯の点検



1. 方向指示灯（前）
2. マーカーランプ
3. ヘッドライト



1. ブレーキ / テールランプ
2. 方向指示灯（後）
3. 番号灯

1. 車両の電源をオンにします。
2. テールランプ、ブレーキランプなどの灯火装置や方向指示灯の点灯・点滅具合が良好かを点検します。
3. エンジンを始動し、ヘッドライトの点灯状態が良好かを点検します。
4. レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

点灯しないときはヒューズを点検（7-22 ページを参照）し、異常がないときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JCA12063

注 意

電球は、指定されているワット数・規格のもの（9-1 ページ「製品仕様」を参照）を使用してください。指定以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

JAU29571

運行において異常が認められた箇所の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

JAU35124

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。
すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

マット塗装（ツヤ消し塗装）のお手入れ

お車によってはマット塗装が施されています。マット塗装部分のお手入れをするときは、以下の点に注意してください。

JCA13084

注 意

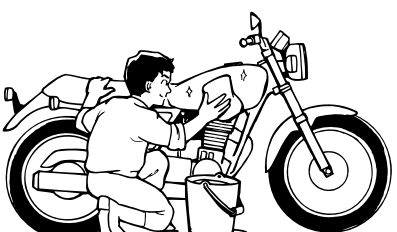
- **洗車などでブラシは使用しないでください。塗装を傷つけることがあります。**
- **ワックスがけはしないでください。外観が変化することがあります。**
- **コンパウンドは使用しないでください。マット塗装の表面が研磨されて、光沢がでることがあります。**

JAU27847

洗車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して洗車した後、充分に水洗いします。
- 柔らかい布で、車に付着した水分をよくふきとります。
- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。
- 車の塗装面保護のため、ワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）



JWA11931

⚠警 告

- 洗車はエンジンが冷えているときにしてください。
- 洗車後、ブレーキのききが悪くなることがあります。ききが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、ききが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。
- ブレーキディスクやパッドにワックスやグリースなどの油脂類をつけないでください。ブレーキがきかなくなり、事故の原因になることがあります。

JCA12215

注 意

- エアクリーナーや電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。
- マフラー内部に水がたまると、始動不良やサビの原因になることがあります。洗車時はビニール袋をかけるなどして、内部に水が入らないようにしてください。
- ヘッドライト、メーターパネル、カバーなどのプラスチック部品にガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。また、コンパウンドの入ったワックスは、表面を傷つけますので使用しないでください。
- ウインドスクリーン、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品やマフラーは、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポンジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが充分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。中性洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。

● 高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、故障の原因となることがあります。

要　点

- 書類入れ付近に水を強くかけないでください。内部に水が入り、書類が濡れることがあります。
- 洗車後、雨天走行後、または湿度が高い天候のときなど、ヘッドライトのレンズが曇ることがあります。このような曇りは、ヘッドライトを短時間点灯することで自然に取れます。

JAU27991

キャストホイールの取り扱い

日常のお手入れ

清掃は中性洗剤を使用し、スポンジで水洗いします。（工業用洗剤、みがき粉、クレンザー、金属タワシなどは、傷がつくので使用しないでください。）

洗車後は、乾いた布などで水分をよくふきとってください。

長期間お手入れをしませんと、表面だけでなく内部まで腐食します。手遅れにならないように、お手入れをしてください。

JWA11951

⚠ 警 告

変形したり、損傷したキャストホイールは、修正して使用しないでください。変形したり、損傷したときは、ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA12221

注 意

● 縁石などに乗り上げるときは、キャストホイールのリムが傷つきやすいので注意してください。

- **アルミは塩分に弱く腐食しやすいので、海岸付近や凍結防止剤をまいた道路などを走った後は、すぐに水洗いをしてください。**

JAU28032

カウリングの取り扱い

ご使用上の注意

- 走行前、各部が確実に取り付けてあるか、取付ガタはないかなどを点検します。
- ウインドシールドの清掃は、キズをつけないように中性洗剤を使い、柔らかい布かスポンジで水洗いします。洗車後は、柔らかい布などで水分をよくふきとってください。

JWA11972

⚠警 告

カウリングとハンドルの間に物を置くと、運転操作に影響を与えることがあります。物を置かないでください。

JCA12231

注 意

- **ウインドシールドにガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。**
- **ヒビ割れのあるウインドシールドは使用しないでください。**

JAU28051

ウインドシールドの取り扱い

使用上の注意

- 走行前、各部が確実に取り付けてあるか、取り付けにガタがないかなどを点検してください。
- ウインドシールドの清掃は、キズをつけないように中性洗剤を使い、柔らかい布かスポンジで水洗いします。洗車後は、柔らかい布などで水分をよくふきとってください。

JWA11981

⚠警 告

ウインドシールドとメーターフードの間に物を置くと、視界を妨げたり、運転操作に影響を与えることがあります。物を置かないでください。

JCA12231

注 意

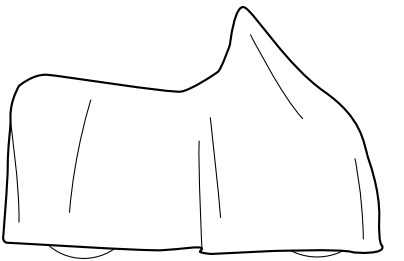
- **ウインドシールドにガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。**
- **ヒビ割れのあるウインドシールドは使用しないでください。**

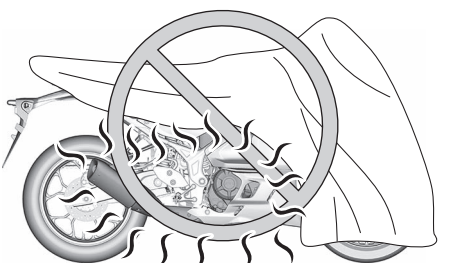
JAU35912

保管のしかた

車はできるだけ敷地内に保管し、屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。

なお、ボディーカバーはエンジンやマフラーが冷えてからかけてください。





JCA13111

注 意

長期間お乗りにならないときは、以下のことを守ってください。

- **保管する前にワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）サビを防ぐ効果があります。**
- **バッテリーを取り外し、充電器で満充電にした後、湿気のない涼しい場所に保管してください。また、バッテリーの劣化を抑えるため、3 か月ごとに補充電を行ってください。**
- **長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。**

※ 補充電については、ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU28087

アフターケア用品について

ヤマハ車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。大切なお車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。また、お車の手入れにも、ヤマハ純正用品をご使用いただくことをおすすめします。

JAU28116

ヤマハ純正オイル

ヤマルーブ RS4GP

ヤマルーブシリーズ最高峰エンジンオイル。
ヤマルーブ RS4GP は、ヤマハ発動機の MotoGP レーシングチームにおいて技術開発されたテクノロジーを高次元でフィードバックしています。
高負荷、高回転での過酷な条件に耐える油膜保持性、せん断安定性に優れ、長時間安定して高い潤滑性能を発揮します。
高性能エンジンに適した、ヤマルーブシリーズ最高峰の高性能オイルです。

低摩擦特性・高い油膜保持性により、優れたスロットルレスポンスとシフトフィーリングを長時間安定して発揮します。

ヤマルーブプレミアムシンセティック
中・大型車両に最適な高品質二輪車用オイル。大排気量モデルでの夏場の渋滞運転などエンジンには過酷な状況に強いオイル。
高温高負荷状況下で蒸発が少なく、高い酸化安定性能と油膜保持性能を発揮します。

ヤマルーブスポーツ
走行シーンを選ばないミドルグレードオイル。
価格と性能のバランスに優れ、排気量や車種を問わないオイル。
ストリートからロングツーリングまであらゆる走行シーンで安定した性能を発揮します。

ヤマルーブスタンダードプラス
経済的にも優れた、コストパフォーマンスオイル。

ヤマハ車の開発テストに使用され、工場出荷時にも充填されるベーシックオイル（一部車種を除く）。
コストパフォーマンスに優れ、スポーツ走行からタフな業務使用まで幅広い用途に対応。

エンジンオイル以外のオイルや、その他の油脂液類については、次の URL を入力してホームページを参照するか、
「ヤマハ　バイク　オイル」というキーワードで検索してください。

https://www.ysgear.co.jp/mc/

ヤマハ　バイク　オイル　検索

寸法：
全長：
2090 mm
全幅：
735 mm
全高：
1140 mm
シート高：
780 mm
軸間距離：
1380 mm
最低地上高：
160 mm

重量：
車両重量：
169 kg
乗車定員：
2 名

性能：
最小回転半径：
2.9 m

エンジン：
行程：
4 ストローク
冷却方式：
水冷
動弁機構：
DOHC
配列：
直列
気筒数：
2 気筒
総排気量：
249 cm^3

フロントブレーキ：
ブレーキ形式：
油圧式シングルディスクブレーキ
指定ブレーキフルード：
BF-4 (DOT-4)

リヤブレーキ：
ブレーキ形式：
油圧式シングルディスクブレーキ
指定ブレーキフルード：
BF-4 (DOT-4)

製品仕様

フロントタイヤ :
種類 :
チューブレス
サイズ :
110/70-17M/C 54S
メーカー / 銘柄 :
IRC/RX-01F
リヤタイヤ :
種類 :
チューブレス
サイズ :
140/70-17M/C 66S
メーカー / 銘柄 :
IRC/RX-01R
動力伝達機構 :
1 速 :
2.666 (40/15)
2 速 :
1.882 (32/17)
3 速 :
1.454 (32/22)
4 速 :
1.200 (30/25)
5 速 :
1.037 (28/27)
6 速 :
0.920 (23/25)
エレクトリカル :
電圧 :
12V
バルブワット数 :
ヘッドライト :
LED
ブレーキ / テールランプ :
LED
方向指示灯（前）:
LED
方向指示灯（後）:
LED
番号灯 :
5.0 W
マーカーランプ :
LED

エンジンオイル :
推奨オイル :
ヤマルーブ プレミアムシンセティック、
スポーツ、スタンダードプラス
エンジンオイル量 :
オイル交換時 :
2.00 L
オイルフィルター取り外し時 :
2.30 L
冷却水容量 :
リザーブタンク（FULL レベルまで）:
0.25 L
ラジエターと全ての経路 :
0.82 L
バッテリー :
バッテリー型式 :
GTZ8V
バッテリー容量 :
12 V, 7.0 Ah (10 HR)
スパークプラグ :
メーカー / 型式 :
NGK/LMAR8A-9
プラグギャップ :
0.8–0.9 mm

JAU36645

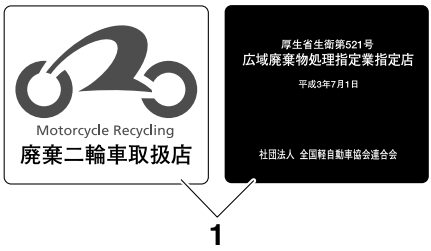
二輪車を廃棄する場合は？

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

一般社団法人　全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



1. 廃棄二輪車取扱店の証

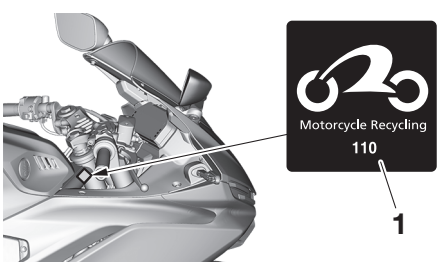
リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用をメーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。
ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料

金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。
廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。
二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。
剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうかが不明の場合は、下記へお問い合わせください。



1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」、または下記のホームページへお願いします。
ヤマハ発動機（株）　二輪車リサイクルシステム

https://www.yamaha-motor.co.jp/mc/recycle/

公益財団法人　自動車リサイクル促進センターホームページ
https://www.jarc.or.jp/motorcycle/

JAU28393

サービスマニュアル（別売）の紹介

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。
サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

サービスマニュアル　部品番号：

QQS-CLT-000-BRA

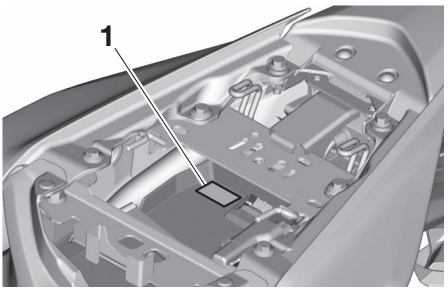
JAU28457

車両情報

モデルラベル

パーツオーダー、アフターサービスなどに使用します。

モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。
モデルラベルは、タンデムシート下の小物入れに貼り付けてあります。

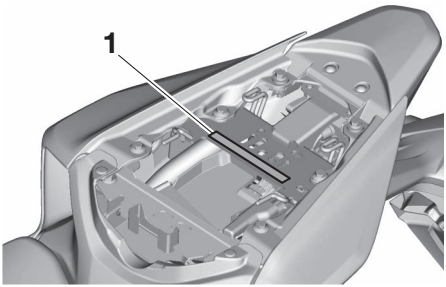


1. モデルラベル

あなたの車の情報を記入し、控えにしてください。
車名は
YZF-R25
モデルラベル
製品仕様を示しています。
○
カラーリングを示しています。
●

JAU50501

車台番号

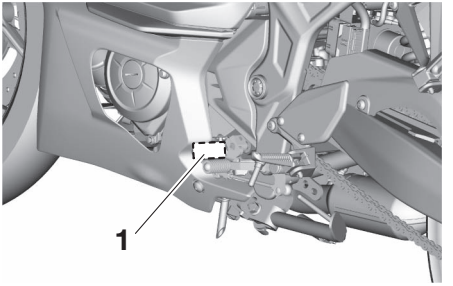


1. 車台番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

JAU50511

原動機番号

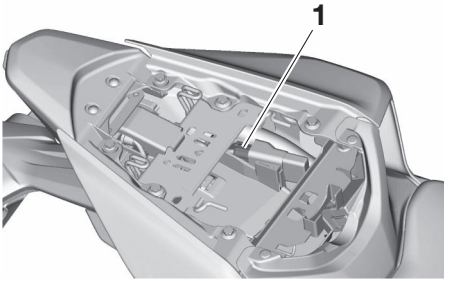


1. 原動機番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。

JAU73861

故障診断コネクター



1. 故障診断コネクター

この車には故障診断コネクターが搭載されています。

JAUA1211

車両情報の記録に関して

これはヤマハ発動機（以下、当社といいます）の車両情報利用についての概要です。詳細については、当社 WEB サイトのプライバシー・ポリシーをご確認ください。
https://global.yamaha-motor.com/jp/privacy/

車両情報の記録と収集方法

この車両に搭載されているコンピューターは、次の３種類の車両情報を記録しています。
1）車体番号
2）エンジン / モーターの使用状況、車速、走行距離などの車両稼働状況の情報
3）故障診断コード（DTC）など、車両の状態を示す情報
記録した車両情報は車両点検や修理の際にヤマハ車専用の故障診断ツールを接続した場合に限り、当社のサーバーに送信されます。

車両情報の利用目的

当社は収集した車両情報を以下の目的で使用します。
1）適切なメンテナンスや故障探求のため
2）適正な保証修理判定のため
3）製品の研究開発
4）製品、機能、およびサービスの品質向上のため
5）その他の事業目的を達成するため
6）法的義務の履行や係争事案対応のため

ユーザー情報

車両情報の提供に関して
利用目的の達成に必要な範囲内で、子会社、関連会社、業務提携会社、ヤマハ販売店、および業務委託先に情報を提供する場合があります。

お問い合わせ窓口
車両情報の取扱いに関しての請求、質問やご要望がある場合は、以下のメールアドレスにお問合せください。
ヤマハ発動機株式会社
〒 438-8501 静岡県磐田市新貝 2500
dpo@yamaha-motor.co.jp

こちらの連絡先は、車両情報収集に関するお問い合わせのみに使用させていただいております。
関連のないお問合せをいただいた場合、回答できないことがございます。あらかじめご了承ください。
お客様のご要望に的確にお応えするため、ご連絡いただく際には、**お客様の名前、住所、電話番号、メールアドレス等の連絡先と車体番号**をお知らせください。ご連絡いただいた内容に不明な点がある場合は、お客様にご連絡させていただきます。なお、確認が取れない場合はご要望に応じられない可能性があります。

あ
あなた自身と同乗者のために 1-1
アフターケア用品について 8-6
アプリ接続アイコン 4-9
アプリ通知アイコン 4-9
アンダーブラケットの
取り付け状態の点検
（ステアリングステム） 7-19
い
イグニッションサーキット
カットオフシステム 4-37
う
ウインドシールドの取り扱い 8-4
運行において異常が認められた
箇所の点検 7-27
え
ABS 4-23
エアクリーナーエレメントの交換 7-8
エンジンオイル 7-3
エンジンオイルトリップメーター ... 4-14
エンジン警告灯 4-5
エンジン始動 6-1
エンジンのかかり具合、異音の点検...7-6
お
オドメーター 4-13
か
カウリングの取り扱い..... 8-4
環境・住民の方との調和のために.... 1-10
き
キーの取り扱い 4-1
キャストホイールの取り扱い 8-3
ギヤチェンジのしかた..... 6-3
ギヤポジション表示..... 4-12
く
クイックシフターコネクター 4-35
クイックシフター表示..... 4-10
クラッチ..... 7-11
け
警告灯と表示灯 4-4
原動機番号..... 10-5
こ
故障診断コネクター..... 10-5
小物入れ..... 4-31
さ
サービスツール 7-3

索引

サービスマニュアル（別売）の紹介 10-3
サイドスタンド 4-37

し

CCU（コミュニケーションコントロールユニット） 3-1
シート 4-27
シフトタイミングインジケーターランプ 4-6
シフトタイミングインジケーターランプの設定 4-17
車体各部の給油脂状態の点検 7-18
車台番号 10-4
車両情報 10-3
車両情報の記録に関して 10-6
車両の特徴 3-1
瞬間燃費表示 4-15
書類入れ 4-31

す

水温計 4-12
スターター／エンジンストップスイッチ 4-21
スピードメーター 4-10
スマートフォンのバッテリー残量計 4-10

せ

洗車 8-1

た

タイヤ 7-8
タコメーター 4-11

ち

着信通知アイコン 4-9
駐車 6-6

て

DC コネクター 4-35
低速、加速の状態の点検 7-6
点検整備の実施 7-1

と

灯火装置および方向指示灯の点検 ... 7-26
時計 4-11
ドライブチェーン 7-16
ドライブチェーンの給油 7-18
トリップメーター 4-14

な

ならし運転 6-1

に

日常点検箇所／点検内容.....5-1
日常点検の実施 5-1
ニュートラルランプ 4-4
二輪車を廃棄する場合は？ 10-1

ね

燃料 4-26
燃料計 4-11

は

ハザードスイッチ 4-22
バックミラー..... 4-32
パッシングライトスイッチ..... 4-20
バッテリー..... 7-19
ハンドルスイッチ 4-20

ひ

ヒューズ交換..... 7-22
表示単位切り替え 4-8

ふ

フューエルタンクキャップ..... 4-24
フューエルトリップメーター 4-14
ブレーキ.....6-4
ブレーキ液量の点検 7-14
ブレーキパッドの点検..... 7-13
ブレーキランプスイッチの点検 7-13
ブレーキレバーの遊び／
ブレーキペダルの遊び、および
ブレーキのきき具合の点検..... 7-12

へ

平均燃費表示..... 4-16
ヘッドライト上下切り替え
スイッチ 4-21
ヘルメットホルダー..... 4-30

ほ

ホーンスイッチ 4-21
方向指示器スイッチ..... 4-21
保管のしかた..... 8-5
歩行者と他の車のために..... 1-8

ま

マルチファンクション
ディスプレイ..... 4-13
マルチファンクションメーター 4-7

め

メインスイッチ 4-1

も
モデルラベル.....10-3
ゆ
USB Type-A ジャック 4-35
り
リヤクッションの調整.....4-33
れ
冷却水 7-7

Yamaha Motorcycle Connect

あなたの街のあなたのお店

最寄りのお客様相談窓口については、
メンテナンスノートの巻末をご覧ください。

YAMAHA

QQS-CLT-100-BRE

PRINTED IN INDONESIA
2024.12 (J)